令和元年度

六ヶ所村まち・ひと・しごと創生総合戦略

住民意向調査結果

2019 年 11 月

青森県　六ヶ所村

目　　次

1　調査概要 1
（1）　調査目的 1
（2）　調査期日 1
（3）　調査対象・方法 1
（4）　アンケート回収結果 1
2　回答者の属性 2
（1）　性別・年齢 2
（2）　世帯構成 2
（3）　住居・住所地 3
（4）　居住年数 3
3　「ひと」に関する調査 4
（1）　配偶者の有無 4
（2）　子どもの人数 5
（3）　理想とする子どもの人数 6
（4）　希望する出産・育児環境 7
（5）　結婚願望 9
（6）　結婚の条件 10
（7）　結婚しない理由 11
（8）　出生地・転入履歴 13
（9）　転入した理由 13
（10）居住継続希望 15
（11）住み続ける理由 16
（12）転居したいができない理由 18
（13）転居する場合の希望先 19
4　「しごと」に関する調査 20
（1）　就業状況・就業場所・勤続年数 20
（2）　しごとの満足度 21
（3）　しごとの不満理由 22
（4）　新しい就職への希望・希望する職場 23
（5）　就業希望地・就業地希望理由 24
（6）　新たな就業を希望しない・就業できない理由 26
5　「まち」に関する調査 28
（1）　当面の重点的に取り組んでほしいこと 28
（2）　長期的な将来の方向性 34
（3）　将来像 36
6　人口減少や少子高齢化に伴う地方創生事業等に関する自由記述 39

1　調査概要

(1)　調査目的

第２期六ヶ所村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に当たり、雇用や結婚・出産・子育て、社会移動（転入・転出）等に対する村民の意識を把握し、検討の基礎資料とすることを目的に実施した。

(2)　調査期日

令和元年８月１日（木）

(3)　調査対象・方法

①　調査対象

調査対象者は、六ヶ所村に住所を有する 18 歳以上 70 歳以下の 6,915 名（外国人及び介護福祉施設等に居住する者を除く。）の中から、無作為に 2,000 名を抽出した。

その結果、調査対象者の属性は以下のとおりである。

総数　2,000 名（男性 1,164 名　女性 836 名）
20 歳未満　44 名
20 代　361 名
30 代　360 名
40 代　421 名
50 代　350 名
60 歳以上　464 名

②　調査方法

調査票及び返信用封筒を調査対象者へ郵送して実施した。

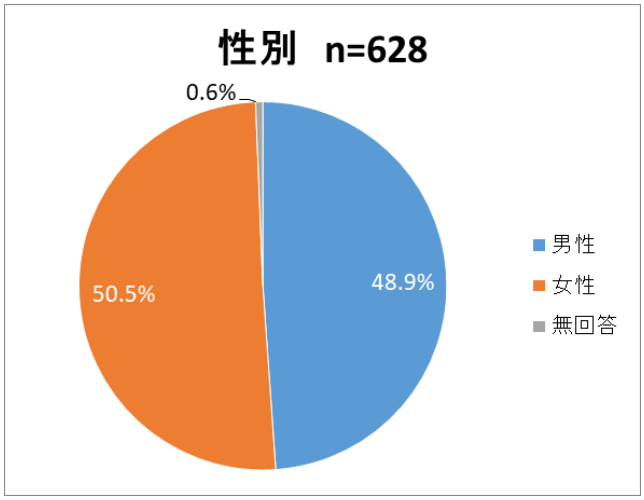
(4)　調査票回収結果

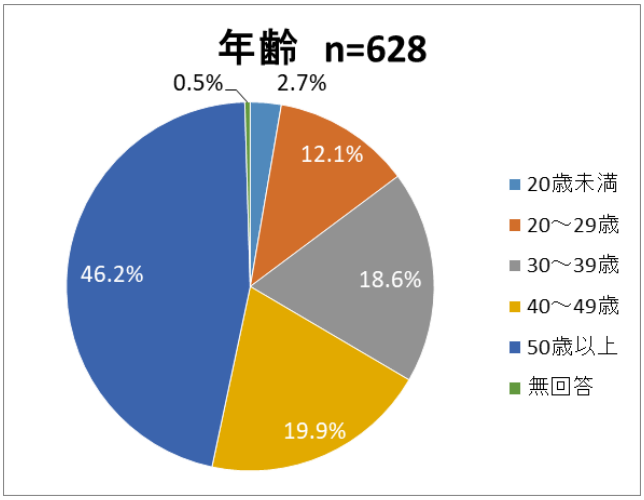
調査対象	発送数	回収数	回収率
六ヶ所村民	2,000	628	31.4%

2　回答者の属性

(1)　性別・年齢

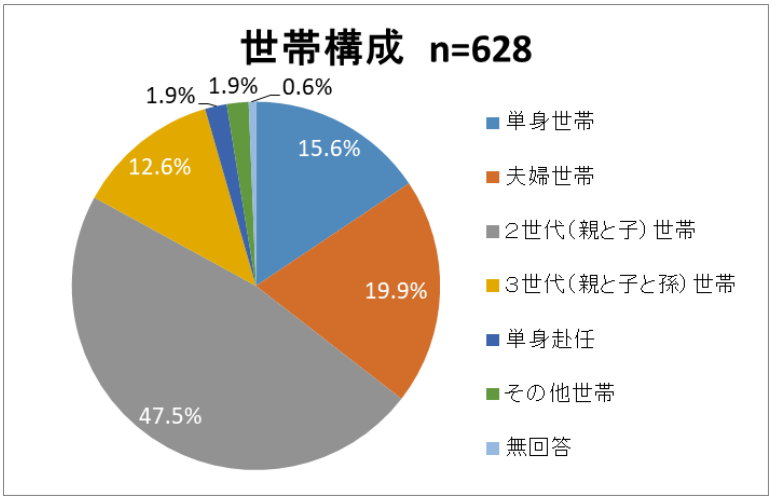
回答者を性別にみると、「男性」(48.9%)、「女性」(50.5%) とほぼ同数である。また、年齢別でみると、「50 歳以上」(46.2%) が最も多く、次いで「40～49 歳」(19.9%)、「30～39 歳」(18.6%) となっている。





(2)　世帯構成

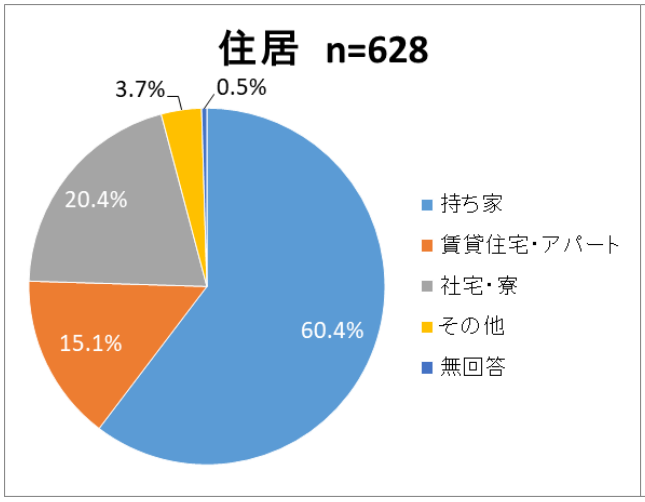
回答者を世帯構成別にみると、「２世代（親と子）世帯」(47.5%) が最も多く、次いで「夫婦世帯」(19.9%)、「単身世帯」(15.6%) となっている。

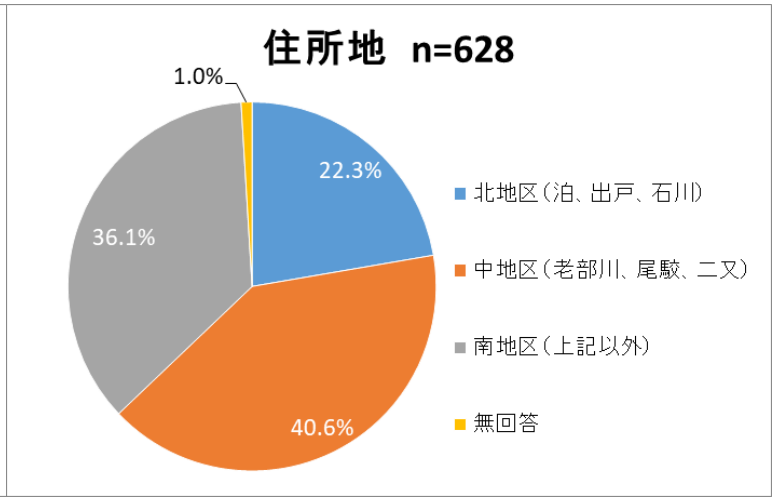


(3)　住居・住所地

回答者を住居別でみると、「持ち家」(60.4%) が最も多く、次いで「社宅・寮」(20.4%)、「賃貸住宅・アパート」(15.1%) という結果であった。

住所地別にみると、「中地区」(40.6%) が最も多く、次いで「南地区」(36.1%)、「北地区」(22.3%) であった。

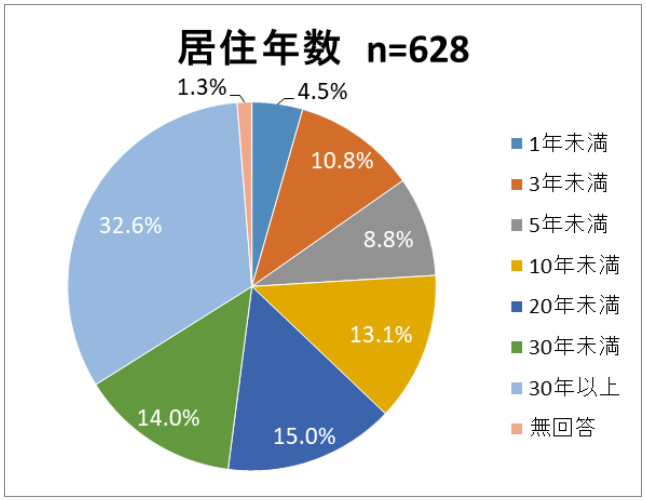




(4)　居住年数

回答者を居住年数別でみると、「30 年以上」(32.6%) が最も多く、次いで「20 年未満」(15.0%)、「30 年未満」(14.0%)、「10 年未満」(13.1%) という結果になった。

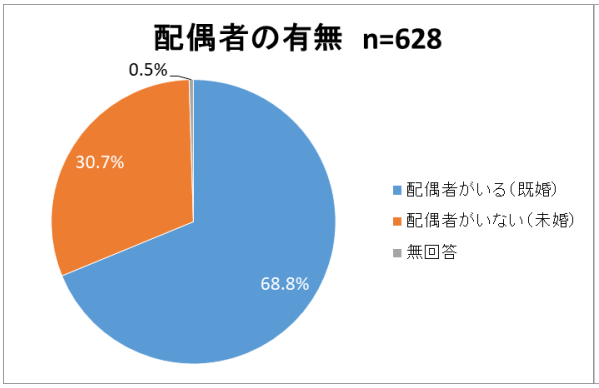
回答者のうち半数近くが 50 歳以上であることからも、比較的長く六ヶ所村に居住している回答者が多いことがわかる。

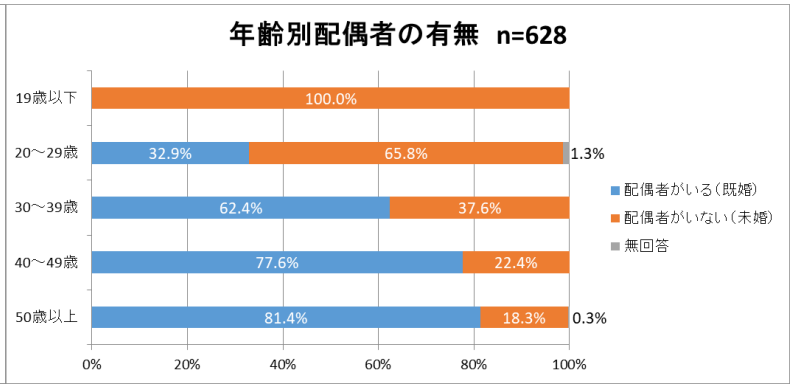


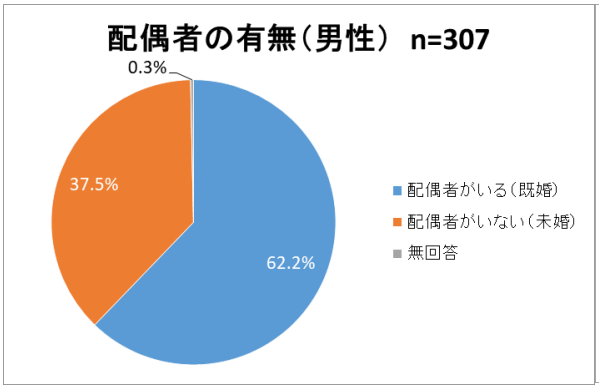
3　「ひと」に関する調査

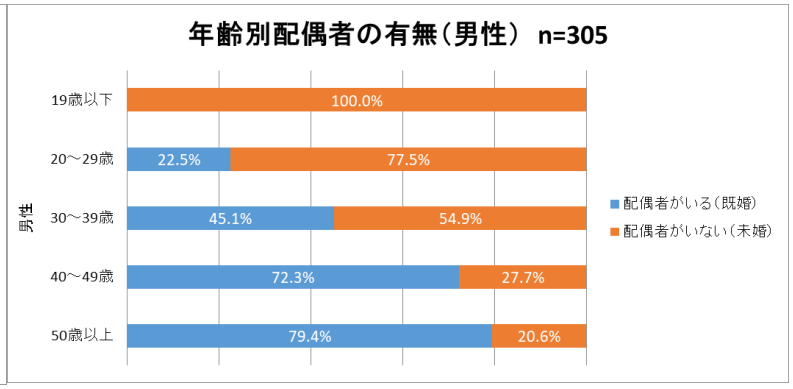
(1)　配偶者の有無

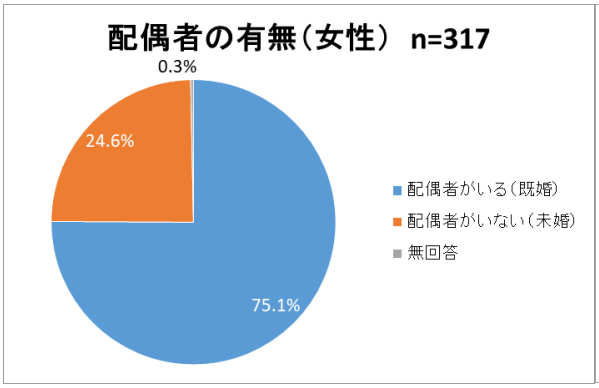
「配偶者がいる」と回答した割合は 68.8%で、性別にみると男性が 62.2%、女性が 75.1%と、男性の既婚率が低いことがわかる。年齢別にみても全ての年齢層で女性の既婚率が上回っており、特に、「20～29 歳」「30～39 歳」で大きな乖離がある。

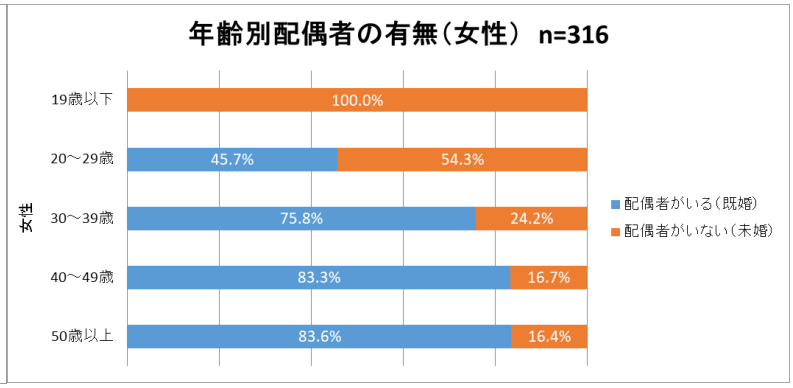






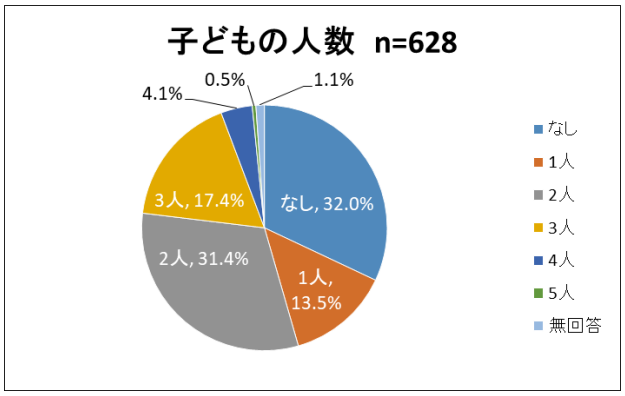


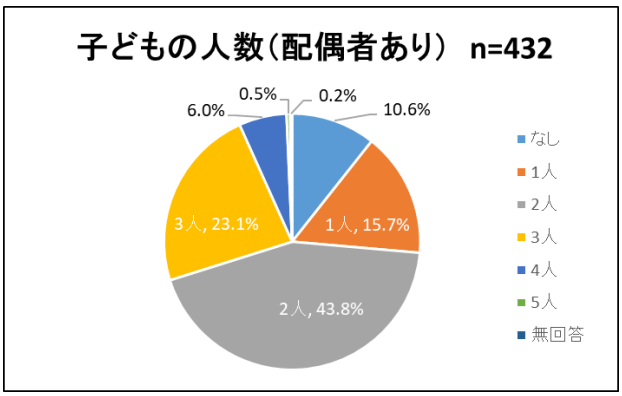


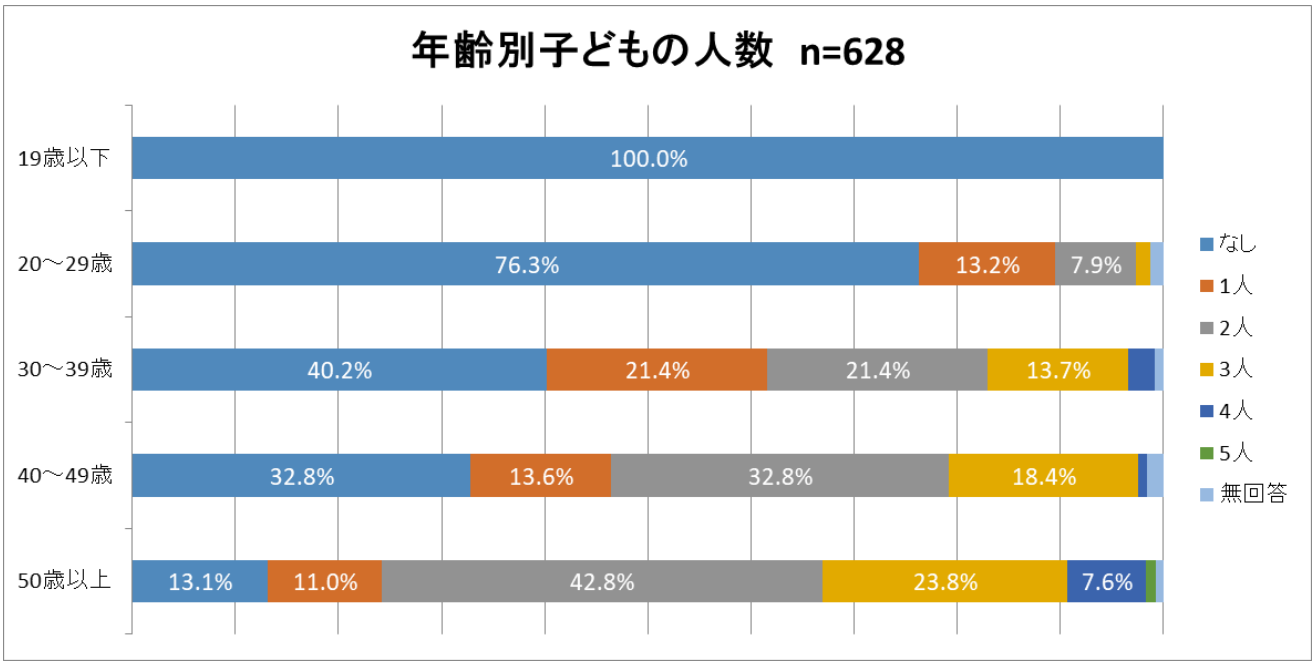


(2)　子どもの人数

子どもの人数は「なし」(32.0%) が最も多く、次いで「２人」(31.4%)、「３人」(17.4%) となっている。年齢別にみると「50 歳以上」で約７割、「40～49 歳」で約６割、「30～39 歳」で約４割が２人以上の子どもを持ち、「20～29 歳」では２人以上の子どもを持つのは１割に満たない。



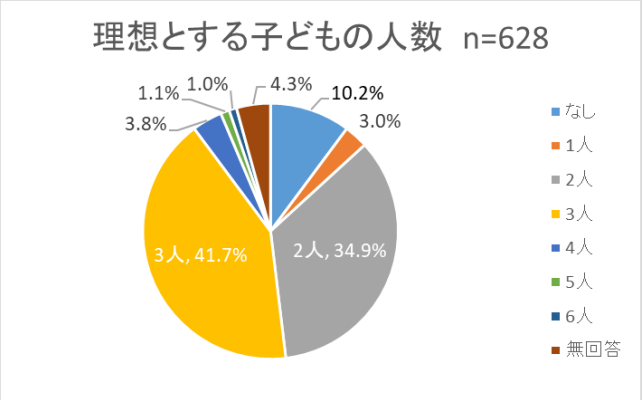


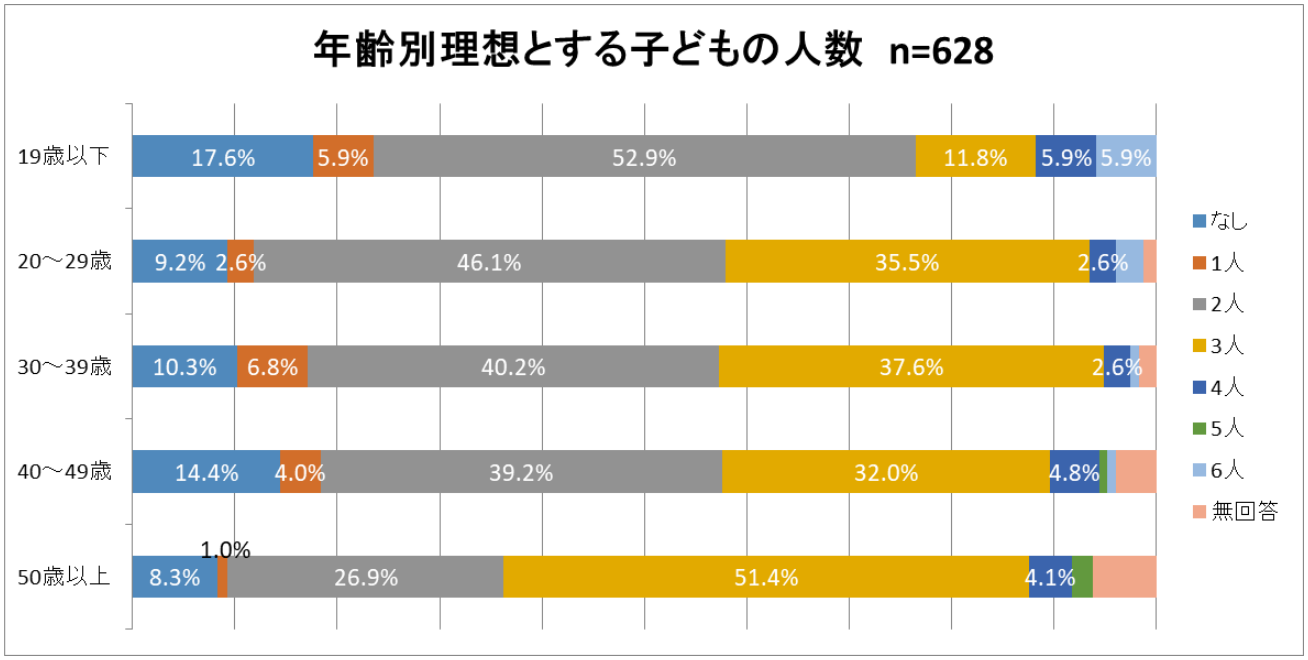


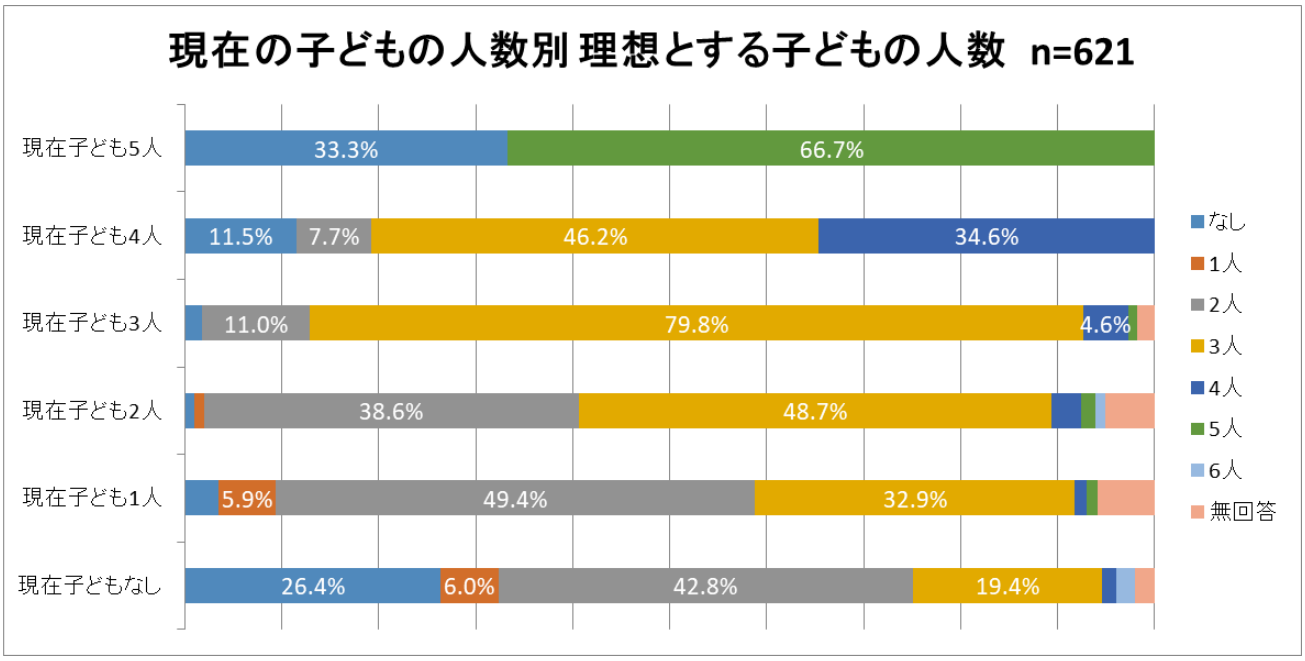
(3)　理想とする子どもの人数

理想とする子どもの人数は「３人」（41.7%）が最も多く、次いで「２人」（34.9%）となっている。年齢別にみると、「20～29 歳」「30～39 歳」では約８割が２人以上の子どもの数を理想と考えている。一方、標本数は少ないが、「19 歳以下」で 17.6%が「なし」を選択しており、２人以上を理想とする割合は最も低い。

現在の子どもの人数別にみると、子ども３人以上を持つ回答者はおおむね理想どおりとなっていが、現在の子どもの人数が０～２人の回答者は、現在より多くの子どもを持ちたいと考えていることがわかる。これは、出産適齢期の回答者によるものと考えられる。

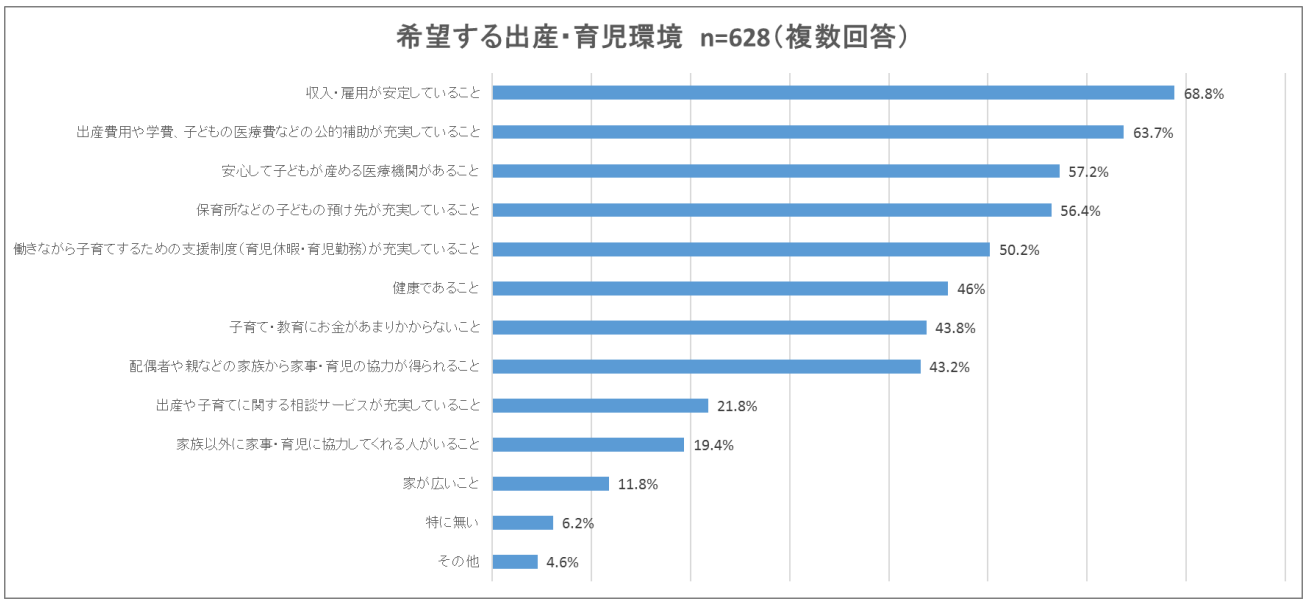


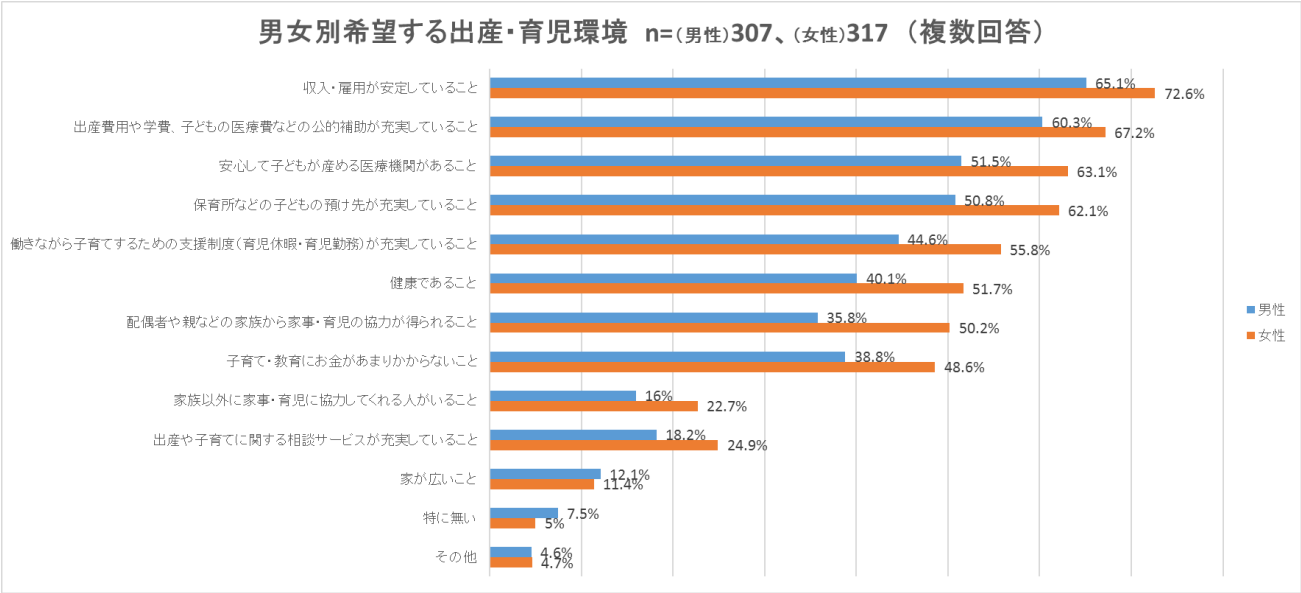




(4)　希望する出産・育児環境

希望する出産・育児環境について、「収入・雇用が安定していること」(68.8%) が最も多く、次いで「出産費用や学費、子どもの医療費などの公的補助が充実していること」(63.7%)、「安心して子どもが産める医療機関があること」(57.2%)、「保育所などの子どもの預け先が充実していること」(56.4%) となっている。男女別にみても、重要視する環境に大きな差異はみられないが、女性の方が各項目を選択する比率が高く、出産・育児環境について高い関心を持っていることがわかる。



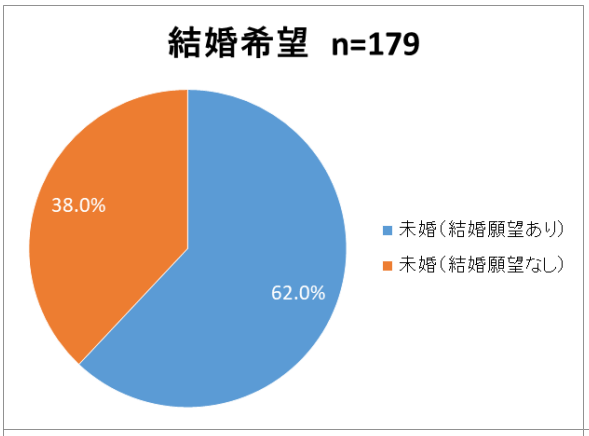


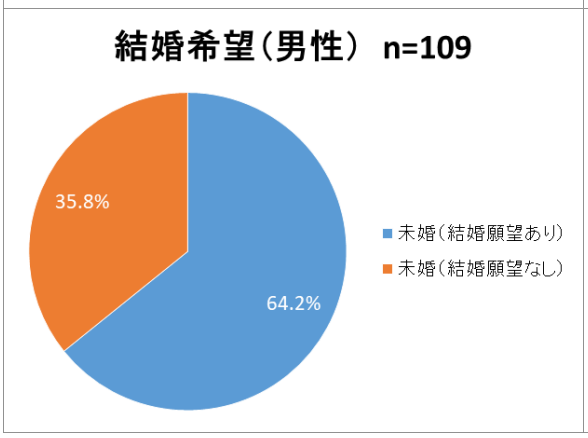
【その他】順不同
・小児科の医療体制の充実
・常勤の助産師
・保育時間の延長
・働いていなくても子どもを預かってくれる場所
・子どもの遊ぶ場所（屋内施設）
・教育環境（機関・サービス）の充実
・進学の環境（選択肢）が整っていること
・子育て中の職員を思いやる会社側の姿勢と主任クラス以上への指導
・夫や妻が早い時間に帰宅できること、休みが取りやすいこと
・買い物環境や公的施設が充実していること
・何を優先するかを問うべき
・子育てを終えた

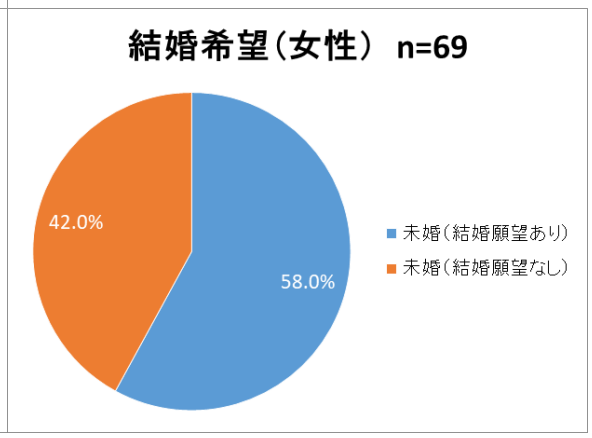
(5)　結婚願望

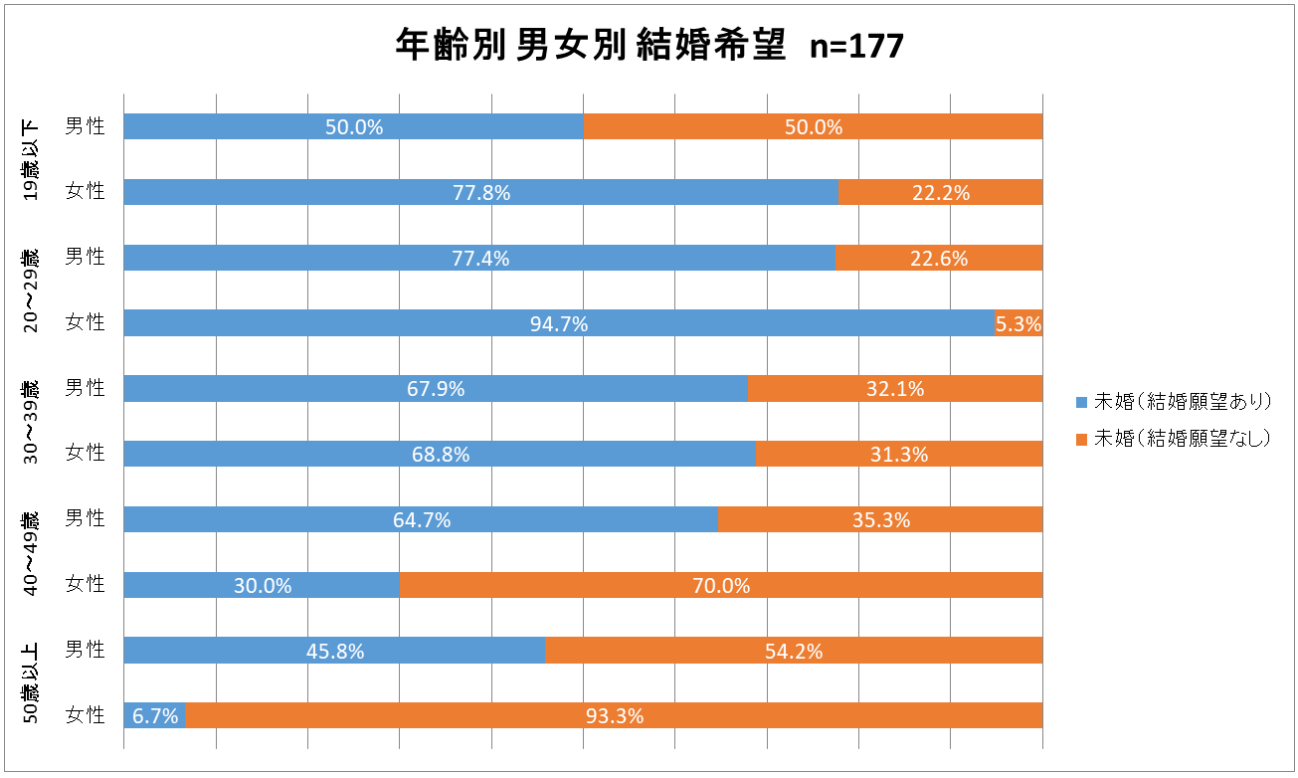
未婚のうち62.0%が「結婚願望あり」と回答しており、男女別にみると未婚男性の64.2%、未婚女性の58.0%が結婚を希望している。

年齢別男女別にみると、29歳以下までは結婚を希望する女性の比率が高いのに対し、30代では男女ほぼ同率、40歳以上では結婚を希望する男性の比率が高くなっている。



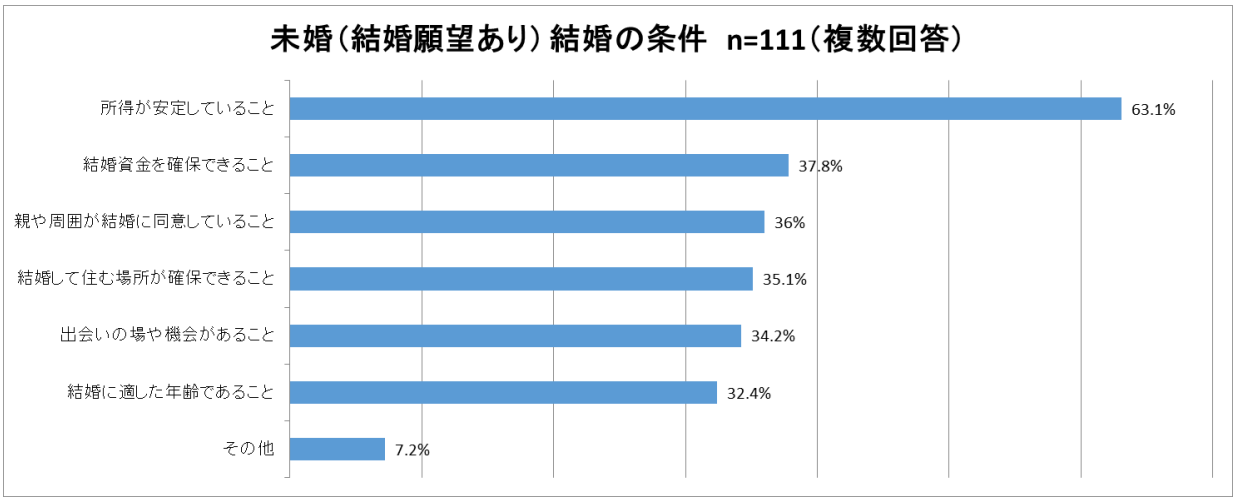


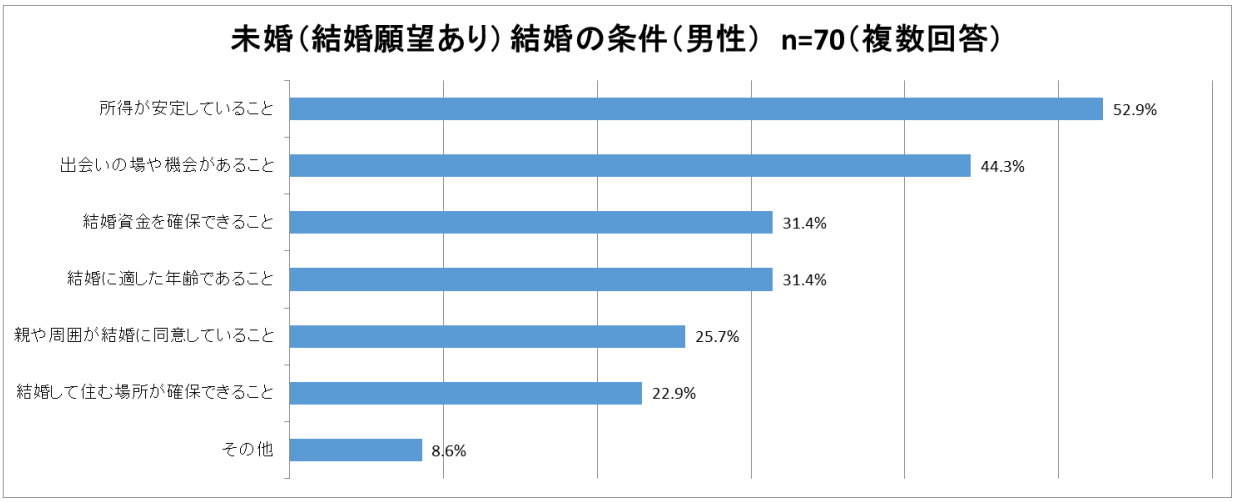


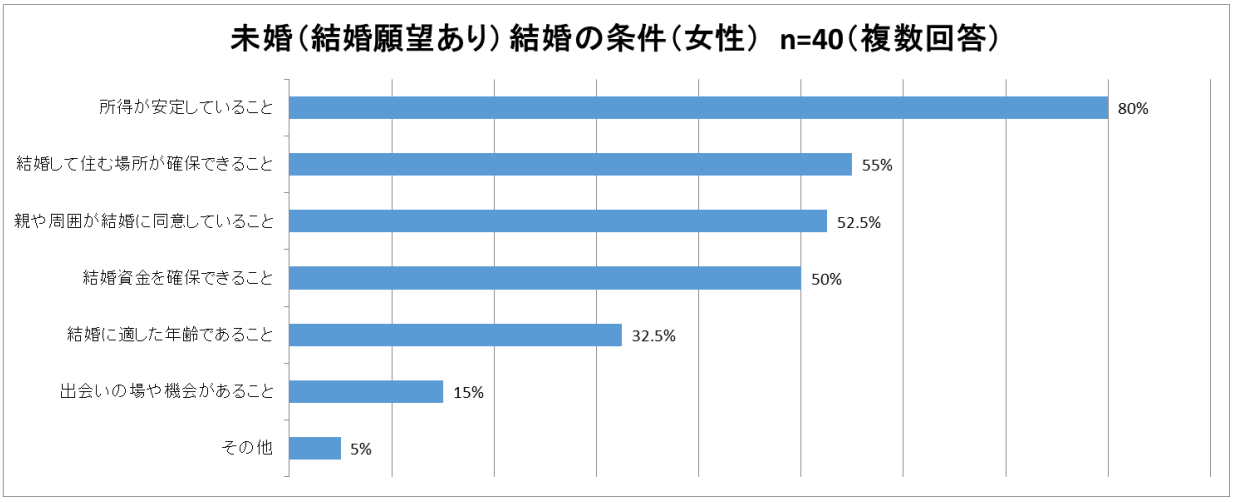


(6)　結婚の条件

結婚の条件として、「所得が安定していること」（63.1%）が最も高く、次いで「結婚資金を確保できること」（37.8%）となっており、経済的な要因が大きく影響していることがわかる。男女別にみると、経済的な要因に大きな関心がある傾向は同じであるが、男性は「出会いの場や機会があること」、女性は「結婚して住む場所が確保できること」「親や周囲が結婚に同意していること」を条件とする傾向がみられる。また、女性の方が各項目を選択する比率が高く、結婚の条件についてより高い関心を持っていることがわかる。





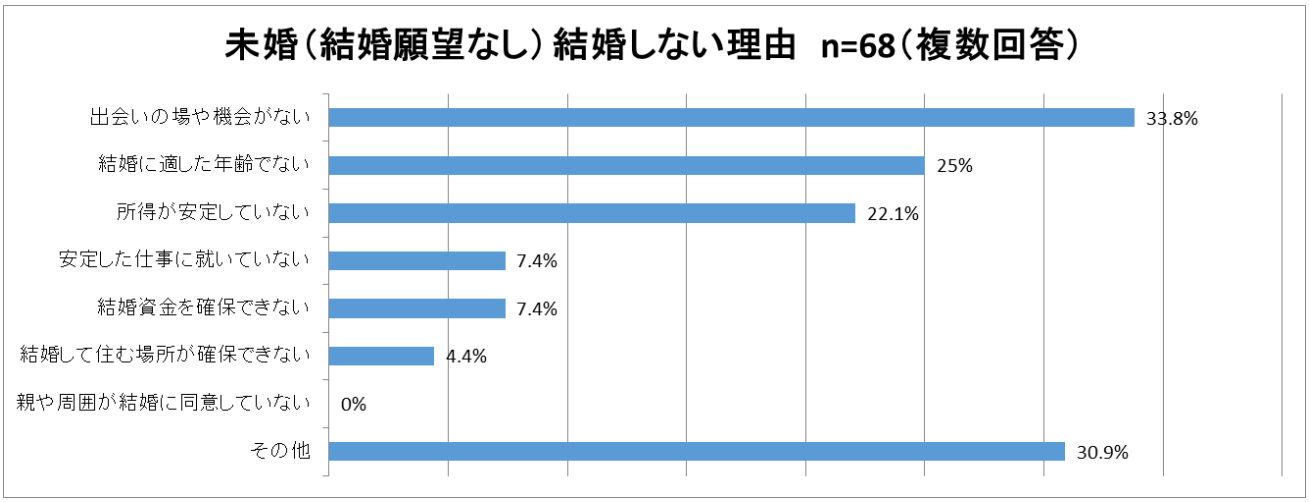


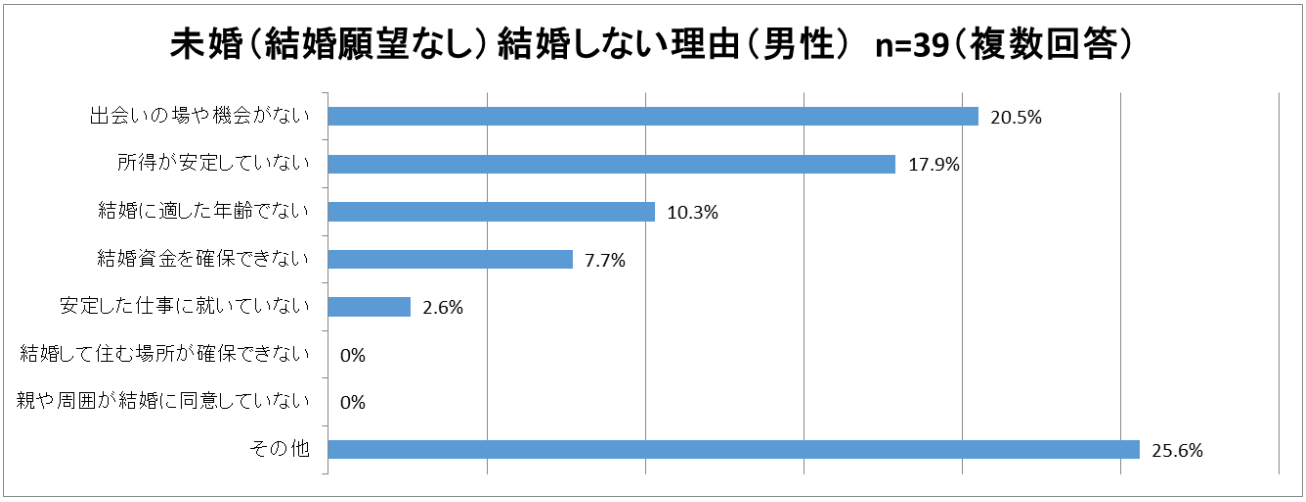
【その他】順不同
・趣味が同じであること
・タイミング
・損得勘定では結婚したくない
・特になし

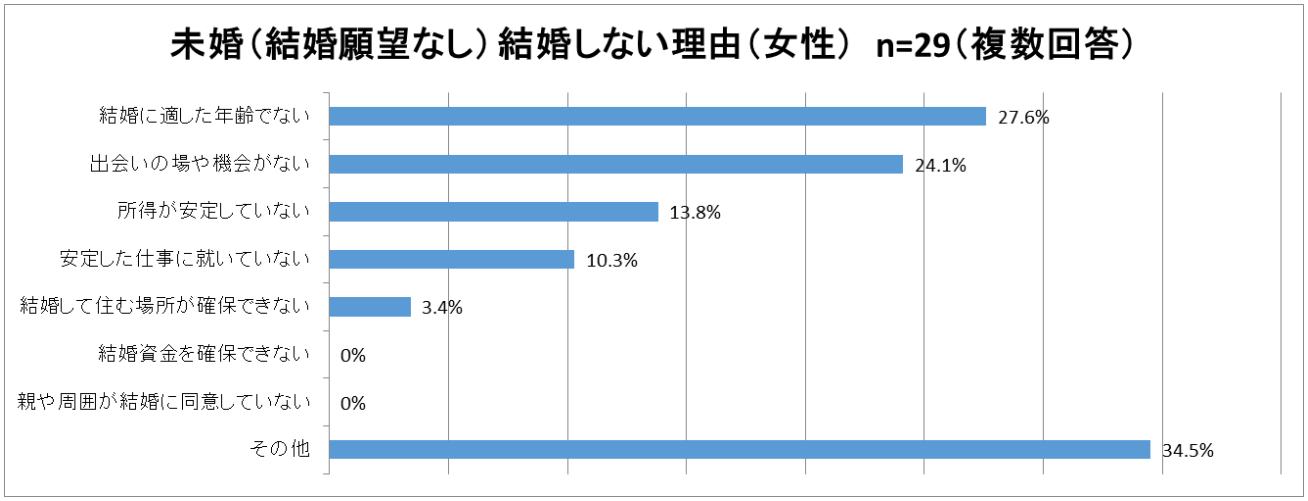
(7)　結婚しない理由

結婚しない理由として、「出会いの場や機会がない」（33.8%）が最も多く、次いで「結婚に適した年齢でない」（25.0%）となっている。男女別にみると、順位に差異はあるものの上位３項目は同じである。

また、この設問では「その他」と回答した比率が高く、具体的な内容は以下に記載のとおりである。





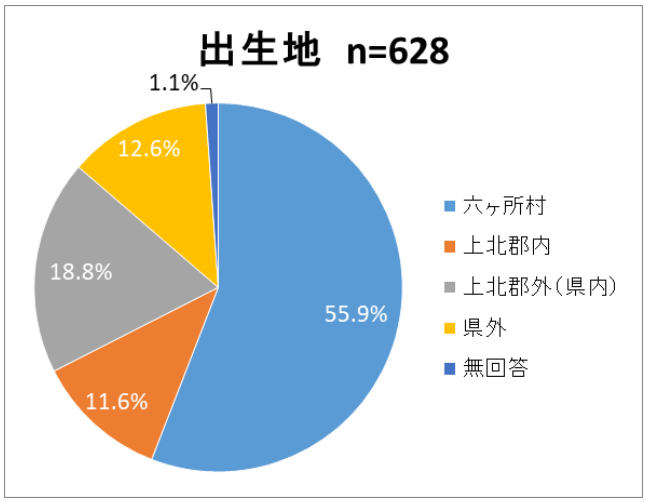


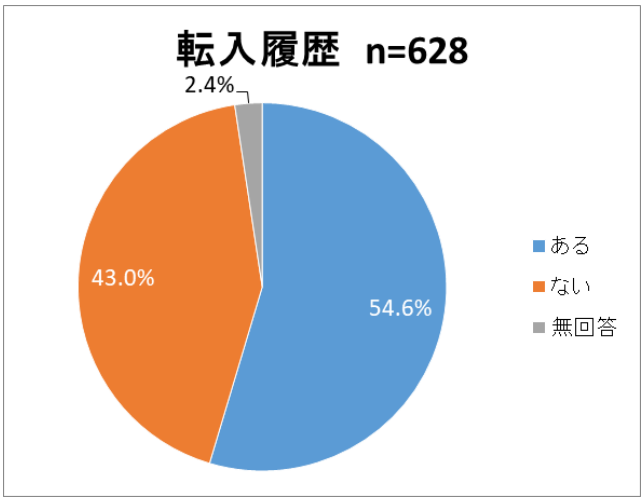
【その他】順不同

・年齢によるあきらめ
・村外に出ると通勤時間がかかるため
・仕事が忙しいため時間を作れない
・一人生きるのが精一杯
・一人でいたい
・子どもが苦手なため
・興味がない、必要がないため
・同性愛者のため
・離婚経験があるため
・死別のため
・学生のため

(8)　出生地・転入履歴

出生地は、「六ヶ所村」（55.9%）が最も多く、次いで「上北郡外（県内）」（18.8%）、「県外」（12.6%）となっている。また、転入履歴は「ある」が 54.6%、「ない」が 43.0%となっており、約１割は六ヶ所村で生まれて一度村外へ転出し、その後、再び転入（U ターン）してきたことがうかがえる。



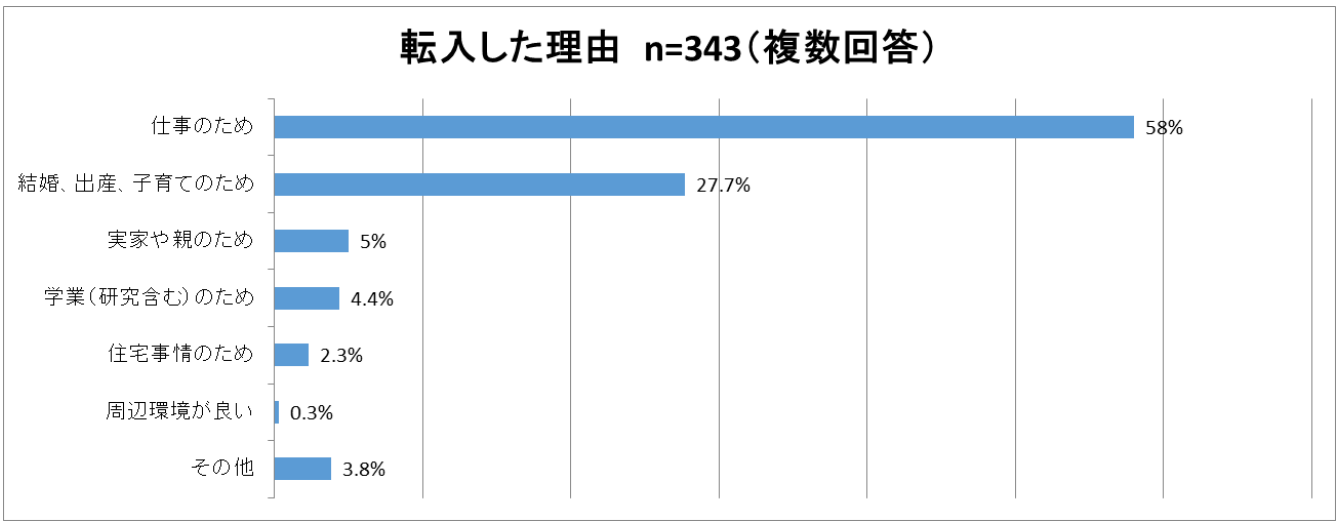


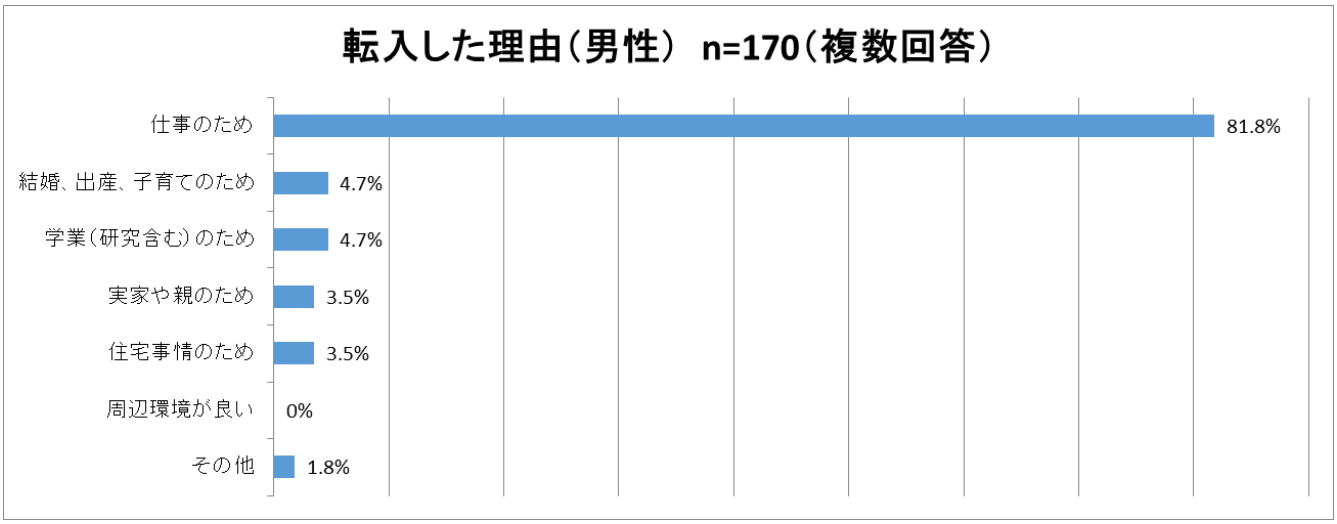
【県外】順不同

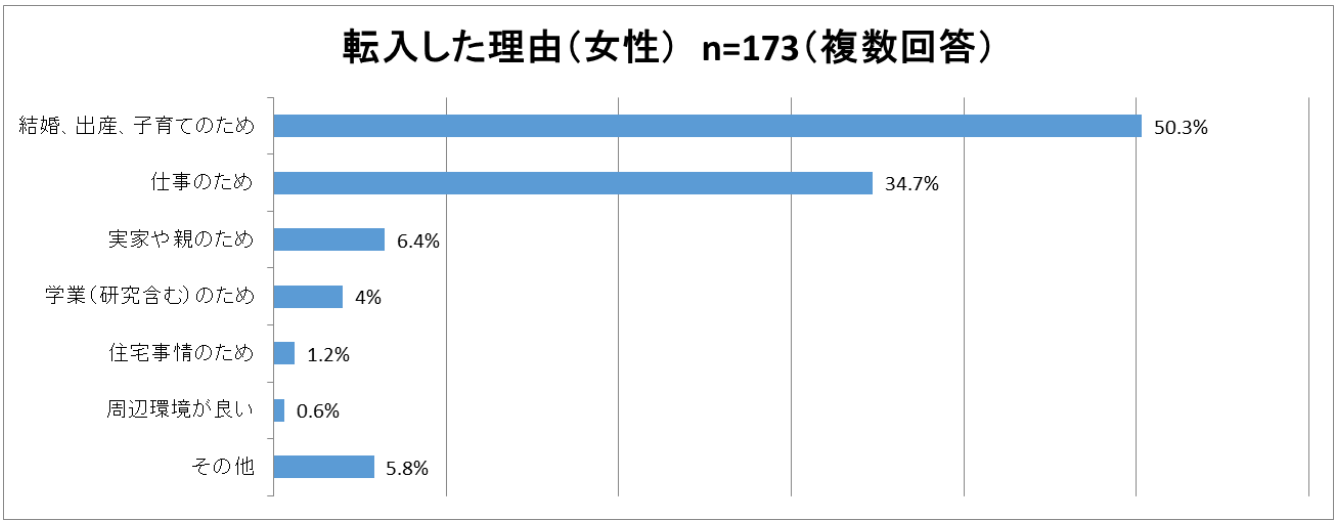
愛知県、茨城県、岡山県、岩手県、岐阜県、宮城県、熊本県、群馬県、埼玉県、山梨県、滋賀県、滋賀県、秋田県、新潟県、神奈川県、石川県、千葉県、島根県、東京都、福岡県、福島県、兵庫県
北海道

(9)　転入した理由

転入した理由は、「仕事のため」（58.0%）が最も多く、次いで「結婚、出産、子育てのため」（27.7%）であった。男女別でみると、男性は約８割が「仕事のため」、女性は約５割が「結婚、出産、子育てのため」、約３割が「仕事のため」を選択している。



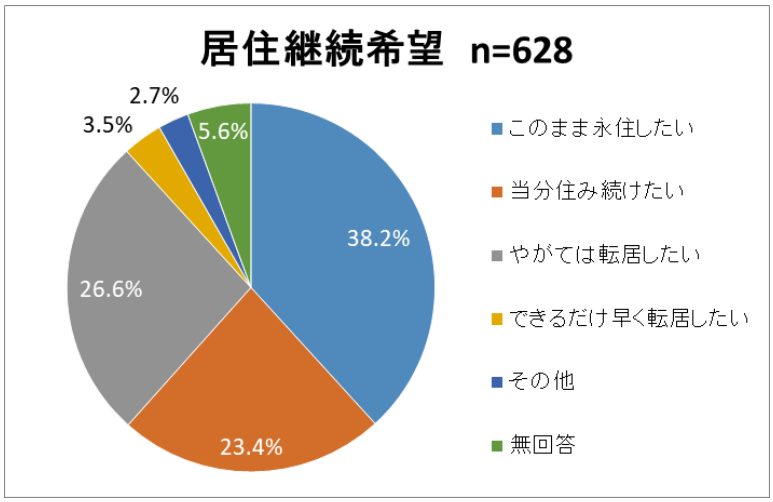


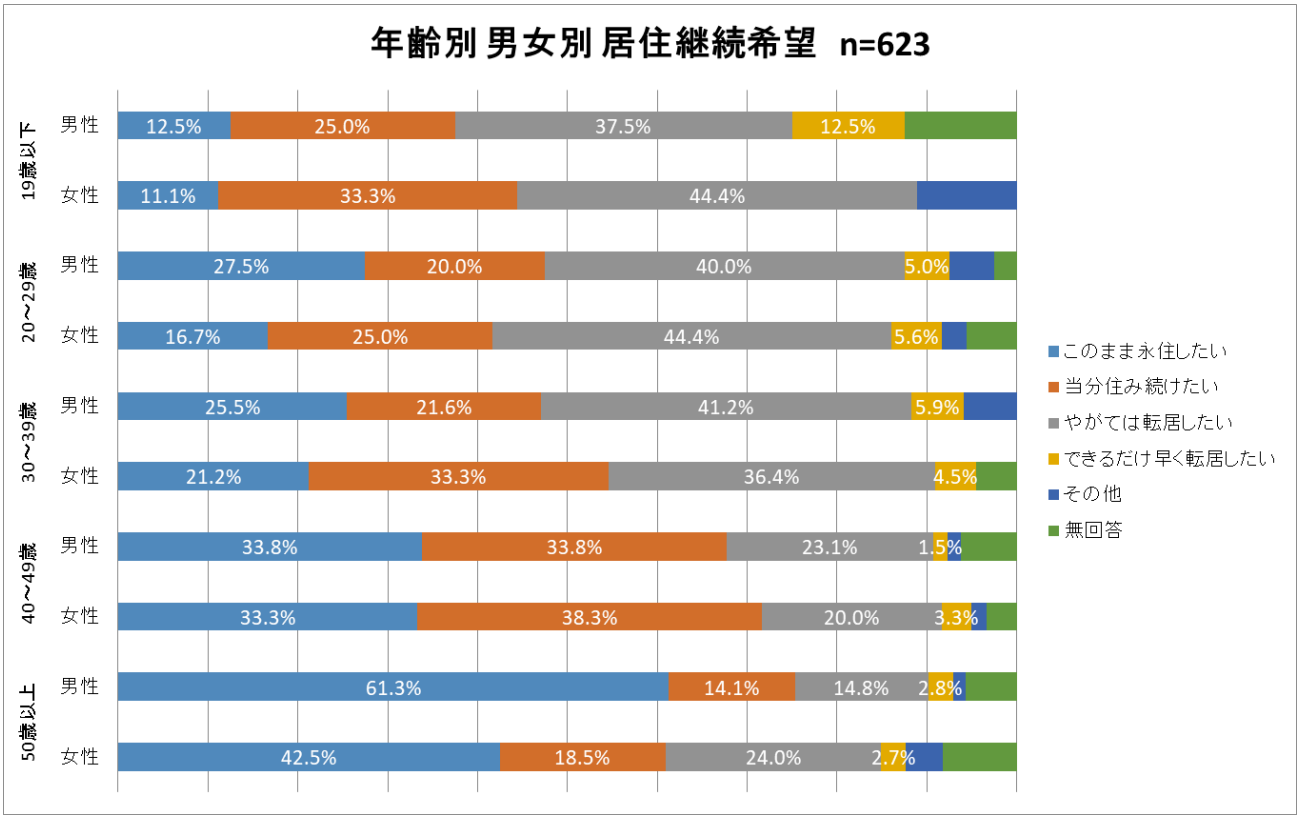


【その他】
・転職のため
・手術が必要だったため
・大家の都合で建物を取り壊すことになったため引越しをしなければならなかった
・家庭の事情

（10） 居住継続希望

居住継続希望について、「このまま永住したい」「当分住み続けたい」と回答したのが全体の約６割、「やがては転居したい」「できるだけ早く転居したい」と回答したのが全体の約３割であった。年齢別にみると年齢があがるにつれて居住継続希望が高まっていくことがみてとれ、男女別にみると「20～29 歳」の女性の居住継続希望が最も低く、約半数が転居したいと考えていることがわかる。





【その他】順不同

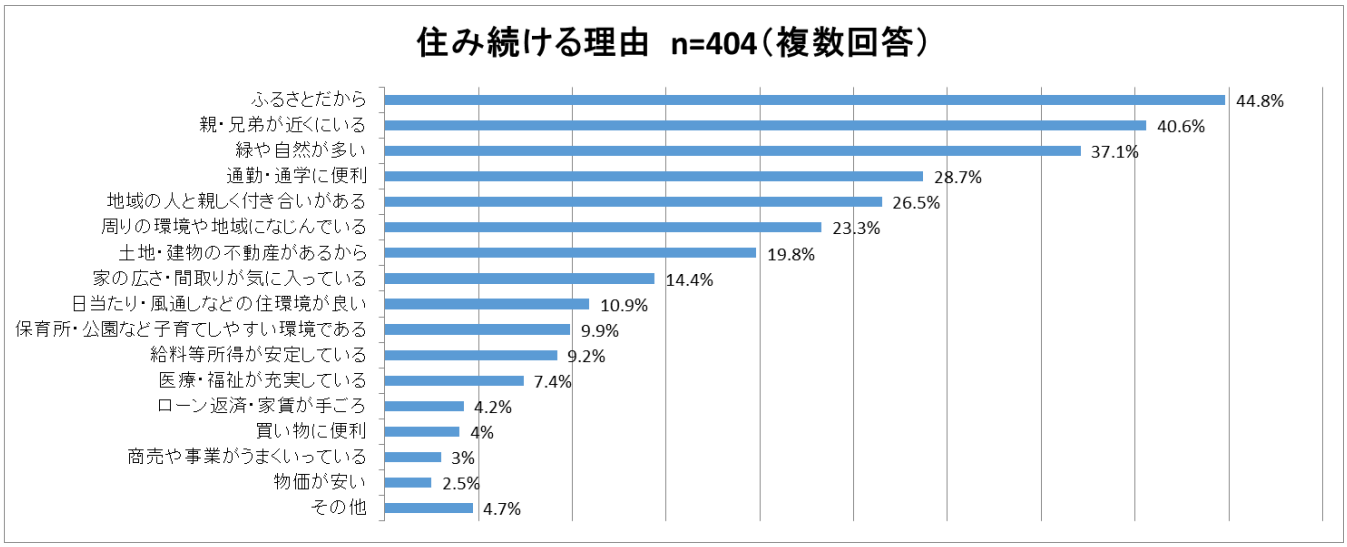
・持ち家があるため転居しない

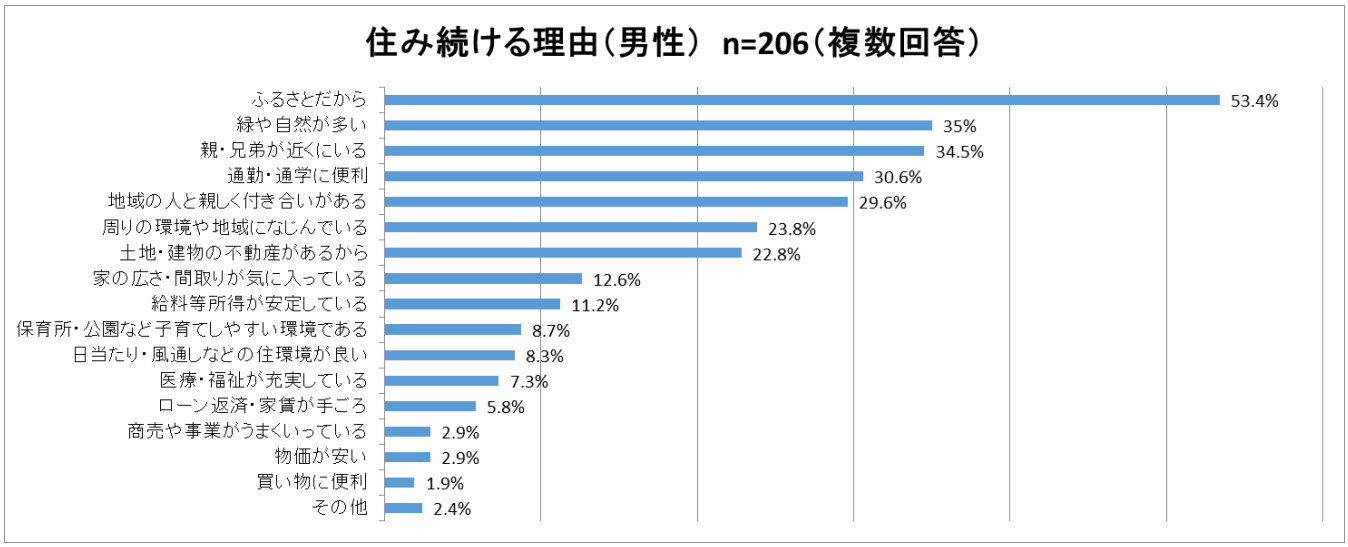
・永住したいけど不便

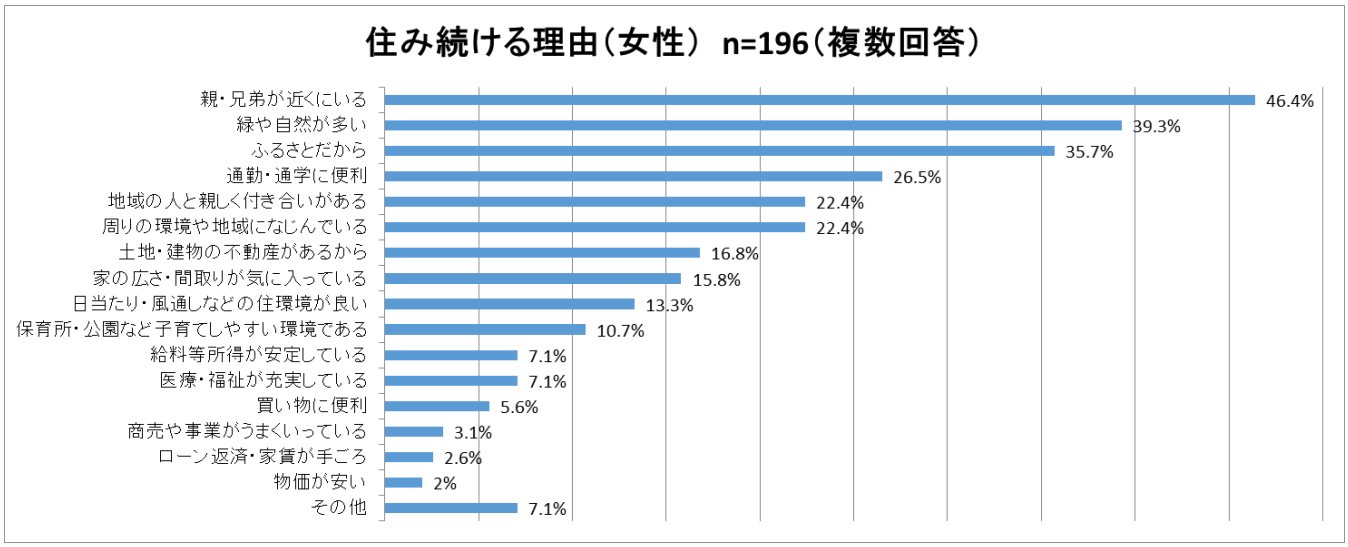
・仕事の都合による
・子どものことを考えなければ住み続けたい
・子どものことを考えると転居したい
・永住したくないけど、せざるを得ない
・特に考えていない
・時と場合による
・転居予定

(11) 住み続ける理由

「このまま永住したい」「当分住み続けたい」と回答した理由について、「ふるさとだから」(44.8%)と最も多く、次いで「親・兄弟が近くにいる」(40.6%)、「自然や緑が多い」(37.1%)となっている。男女別にみると、順位に差異はあるものの上位３項目は同じである。





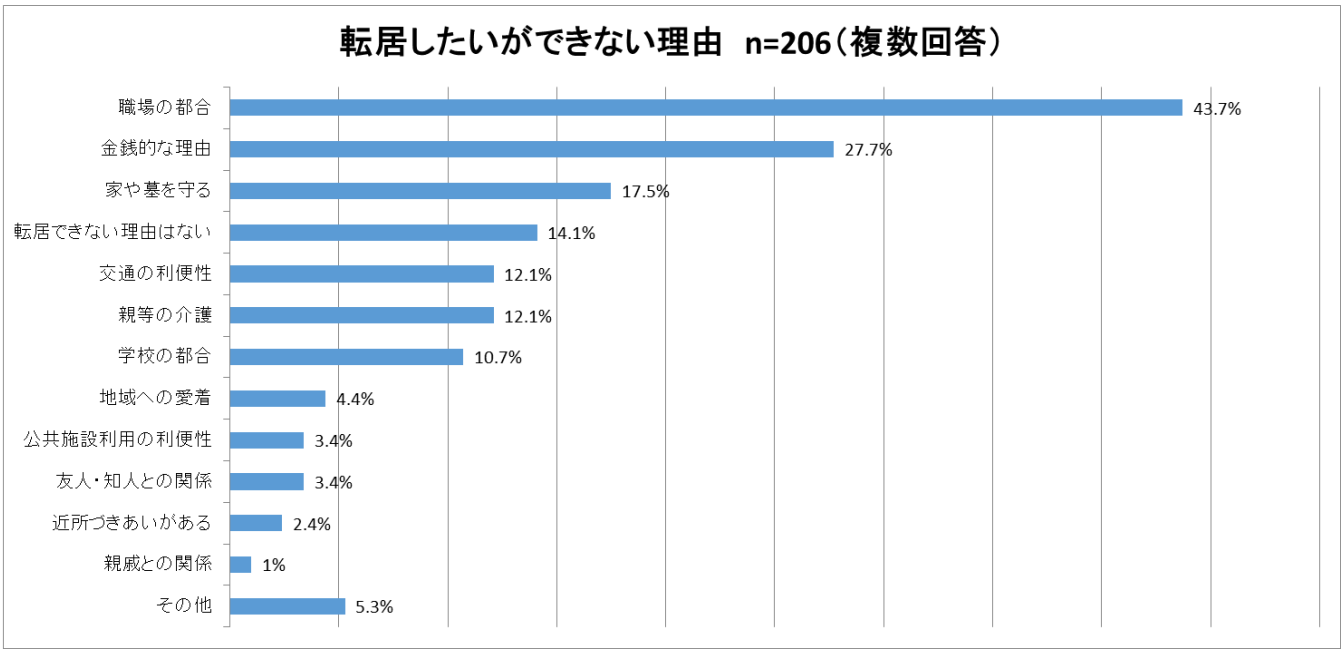


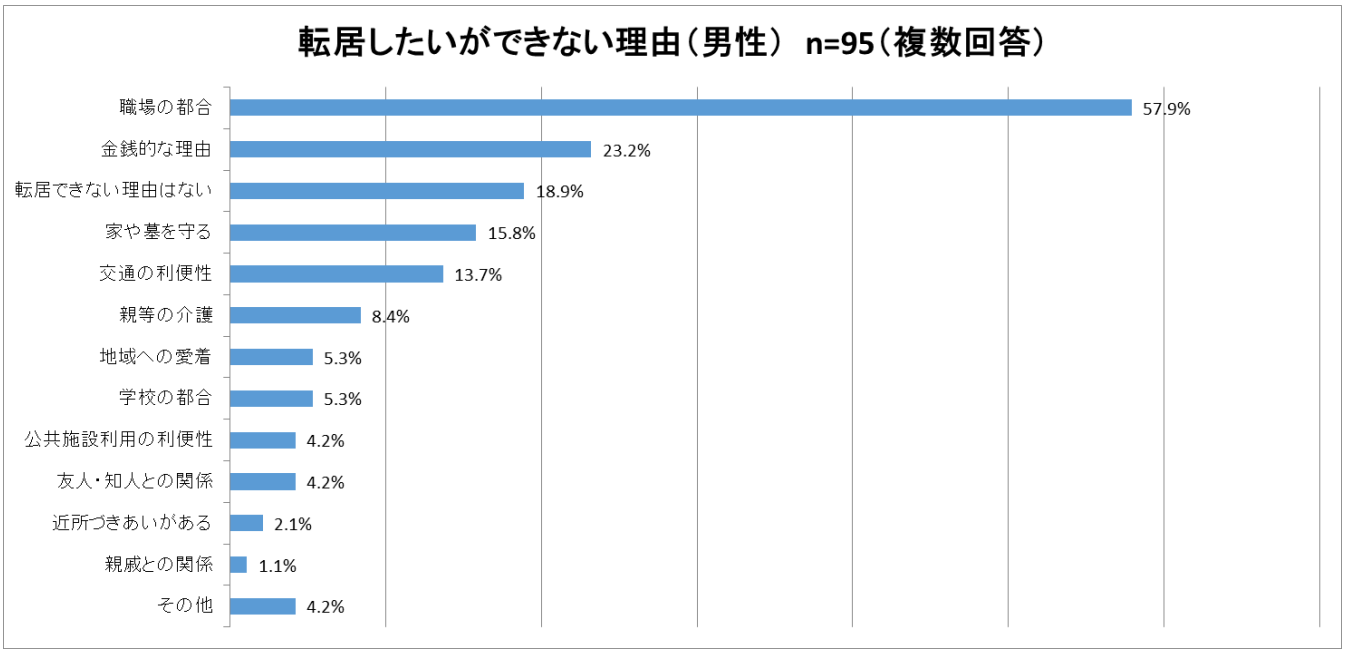
【その他】順不同

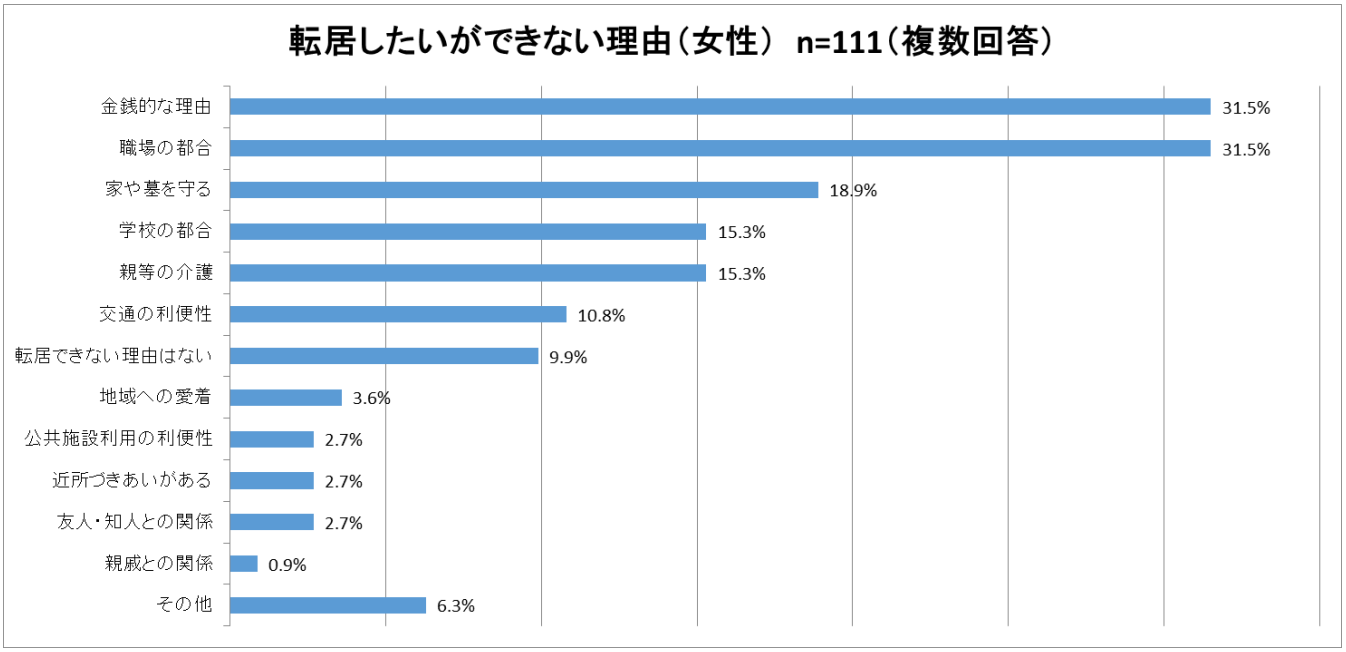
・主人の仕事の都合
・酪農経営しているため
・結婚した相手が六ヶ所の人で長男だったから、家を継ぐため
・家や墓を守るため
・昔から住んでいるから
・除排雪が行き届いている、捨て場に困らない
・子どもの習い事がしやすい環境だから
・都市と比べると子どもだけで外で遊んでいても心配に感じない。比較的安全な地域であることが気に入っている。
・この年齢になると他では住めない
・他へ行っても大変だと思う

（12） 転居したいができない理由

「やがては転居したい」「できるだけ早く転居したい」と回答した方が転居できない理由は、「職場の都合」（43.7%）が最も多く、次いで「金銭的な理由」（27.7%）、「家や墓を守る」（17.5%）となっている。男女別にみると、女性は「金銭的な理由」「親等の介護」「学校の都合」を選択する比率が男性と比較して高いことがわかる。



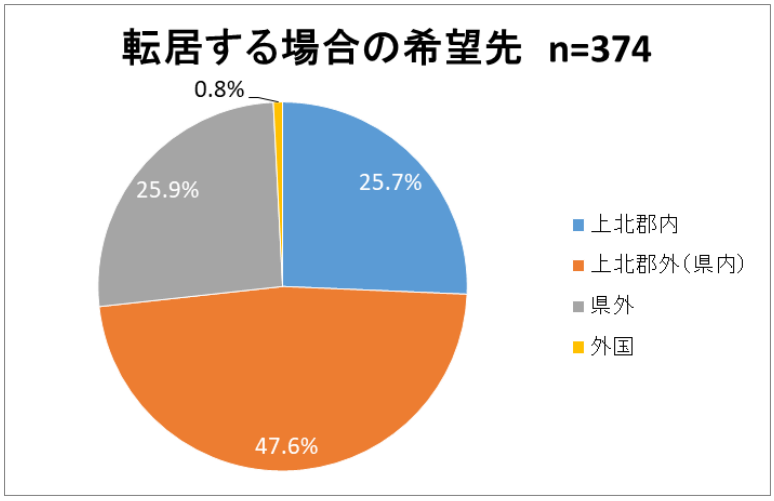




【その他】順不同
・新たな職場を見つけられないから
・不安だから
・転居手続きが大変だから
・結婚してから転居したい
・60 歳過ぎて他へ行く必要はない

（13） 転居する場合の希望先

転居する場合の希望先は、「上北郡外（県内）」（47.6%）が最も多く、「上北郡内」と「県外」はほぼ同数であった。

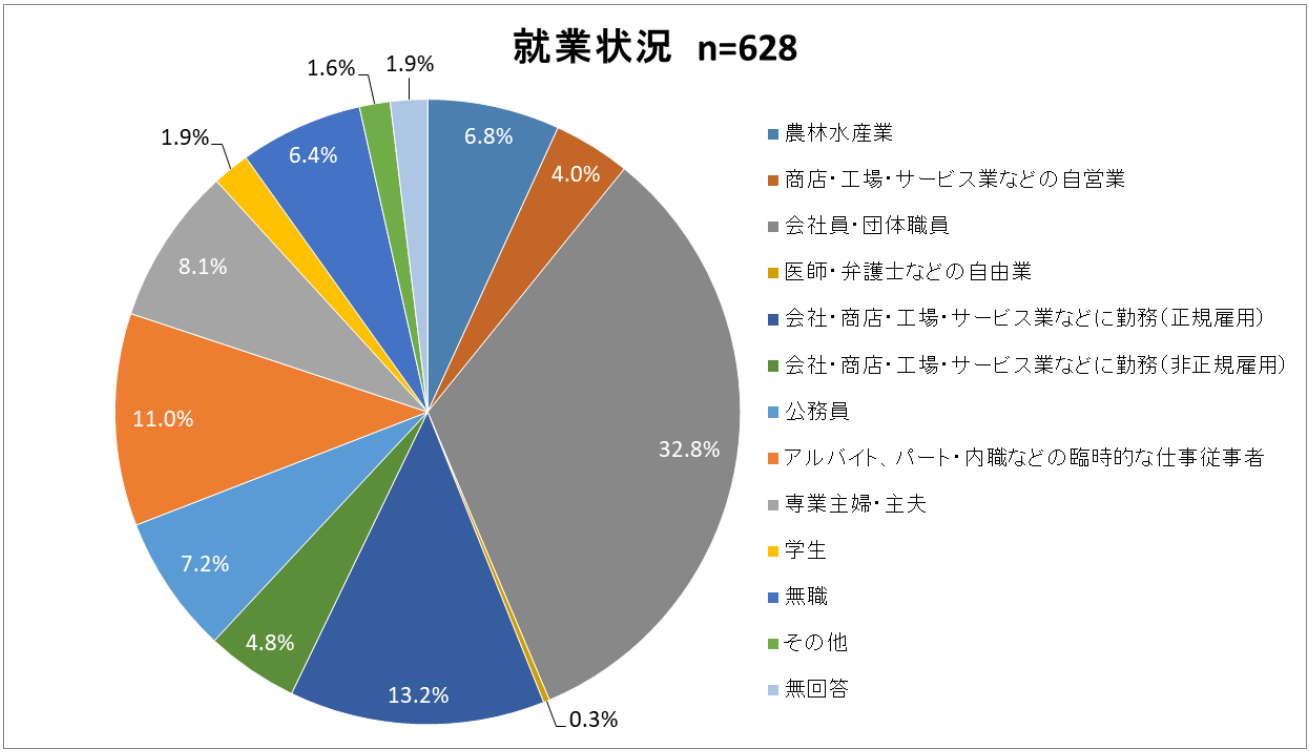


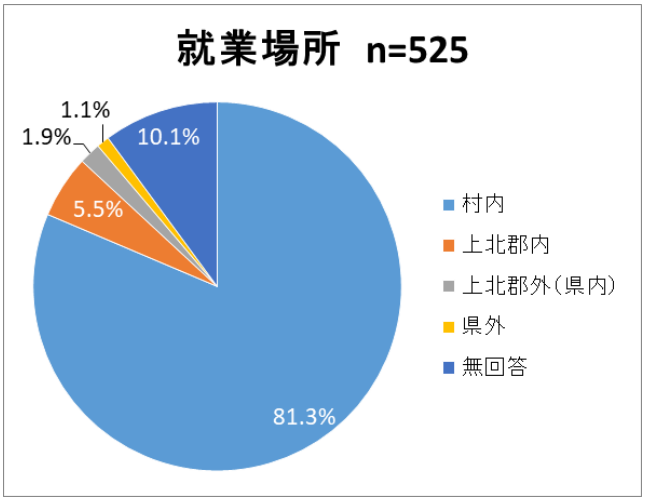
4　「しごと」に関する調査

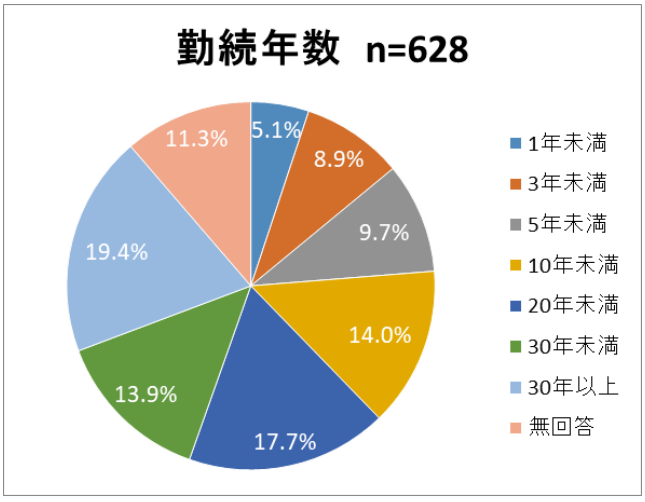
(1)　就業状況・就業場所・勤続年数

就業状況について、「会社員・団体職員」(32.8%) が最も多く、次いで「会社・商店・工場・サービス業などに勤務（正規職員)」(13.2%)、「アルバイト、パート・内職などの臨時的な仕事従事者」(11.0%) となっている。

就業場所は「村内」(81.3%) が最も多く、次いで「上北郡内」(5.5%) となっており、勤続年数は「30 年以上」(19.4%) が最も多く、次いで「20 年未満 (17.7%)」となっている。



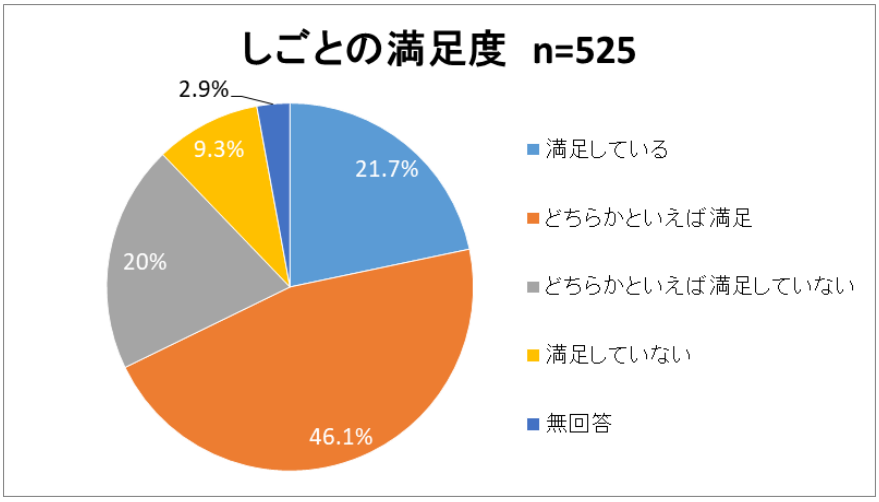


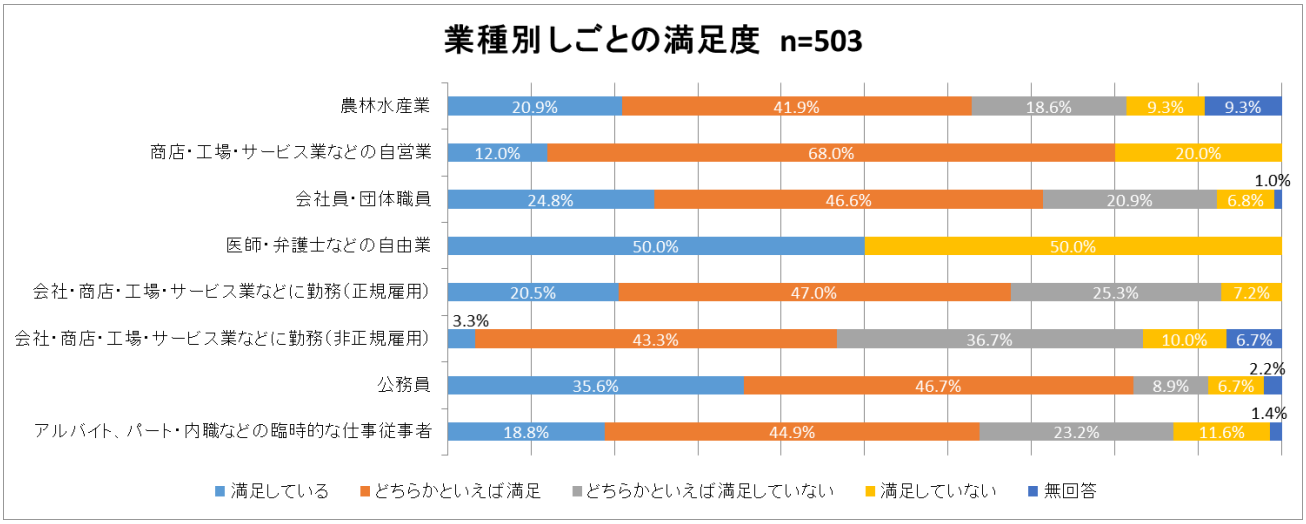


(2)　しごとの満足度

しごとの満足度（「専業主婦・主夫」「学生」「無職」を除く。）について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答したのが全体の約７割、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」と回答したのが全体の約３割であった。

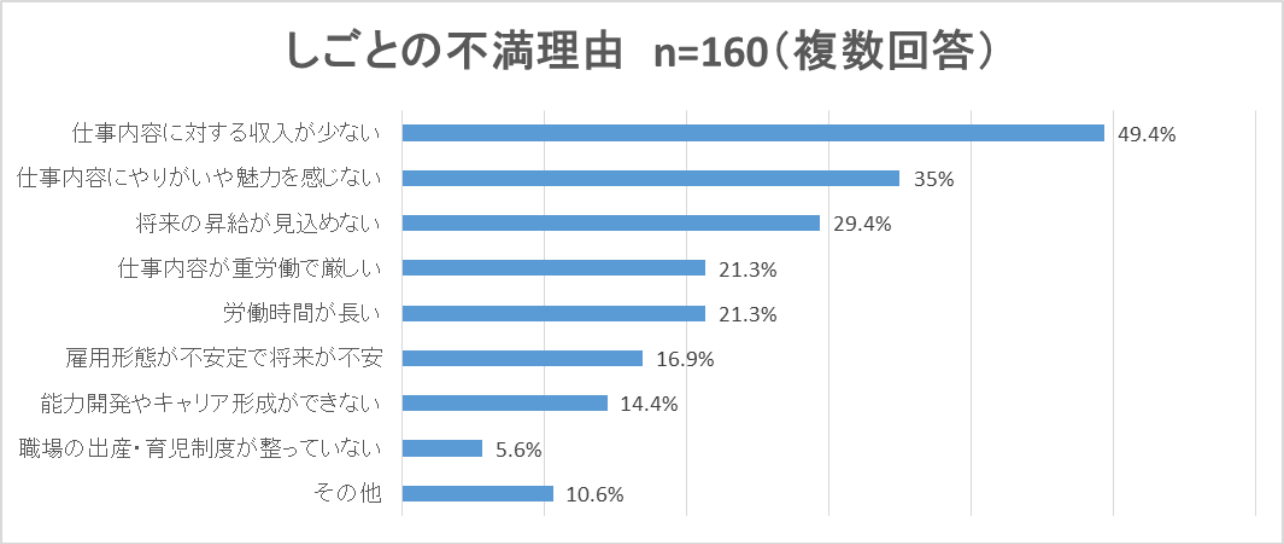
業種別にみると、「会社・商店・工場・サービス業などに勤務（非正規雇用）」で満足度が最も低く、次いで「農林水産業」「アルバイト、パート・内職などの臨時的な仕事従事者」の満足度が低いことがわかる。





(3)　しごとの不満理由

「どちらかといえば満足していない」「満足していない」と回答した理由は、「仕事内容に対する収入が少ない」（49.4%）が最も多く、次いで「仕事内容にやりがいや魅力を感じない」（35.0%）、「将来の昇給が見込めない」（29.4%）となっている。

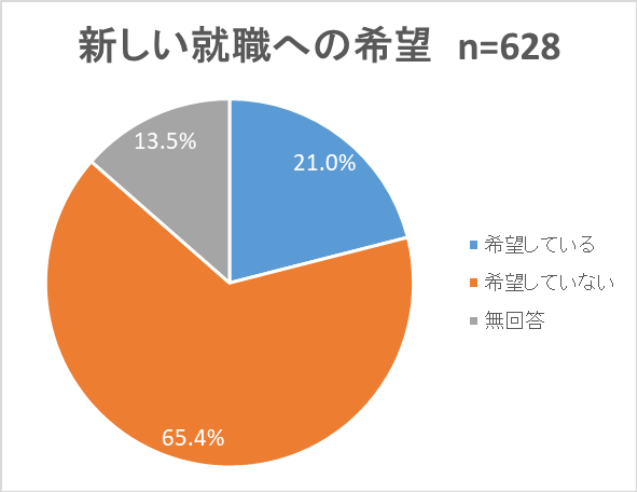


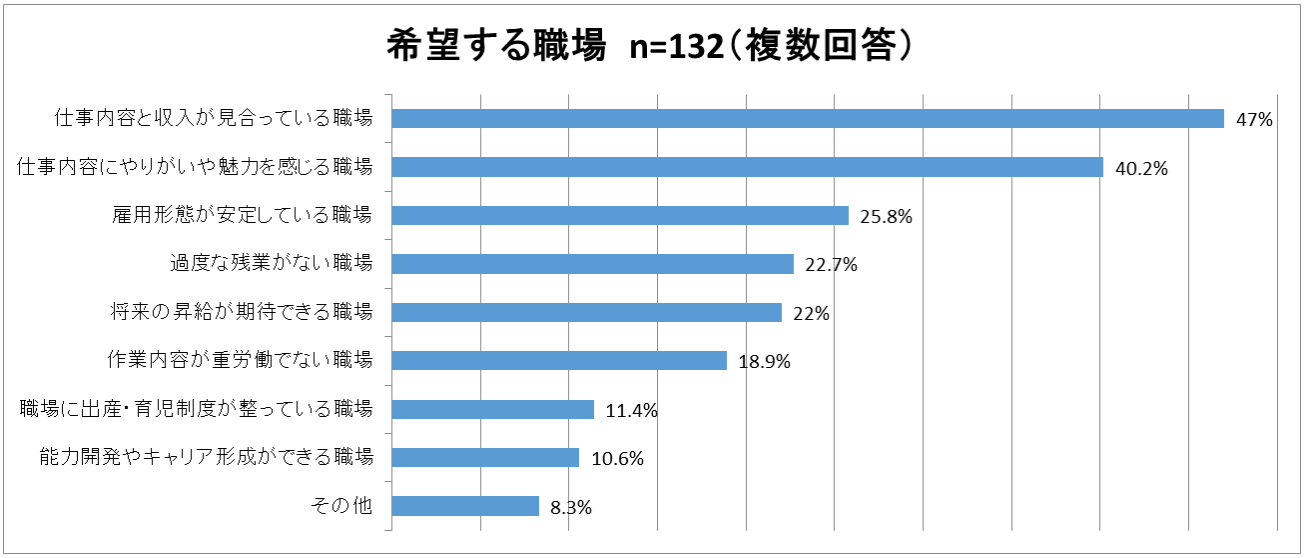
【その他】順不同
・人間関係が煩わしい
・上司とうまくいかない
・職場内のルールが不明瞭
・交替勤務の夜勤がつらい年齢になってきた
・責任が重い
・社会貢献性の低さ
・夫の収入が少なく、職場の出産・育児制度が整っていなかったため子どもを１人しか持つことができなかった
・跡継ぎ、嫁がいない
・仕事の内容にこだわりはなく多方面において機会があれば取り組みたい

(4)　新しい就職への希望・希望する職場

新しい就職（復職・再就職含む）への希望について、６割以上が新しい就職を希望していない一方、約２割は新しい就職を希望している。

「新しい就職を希望している」と回答した方が希望する職場は、「仕事内容と収入が見合っている職場」（47.0%）が最も多く、次いで「仕事内容にやりがいや魅力を感じる職場」（40.2%）となっており、しごとの不満理由と同じ項目が上位となっている。



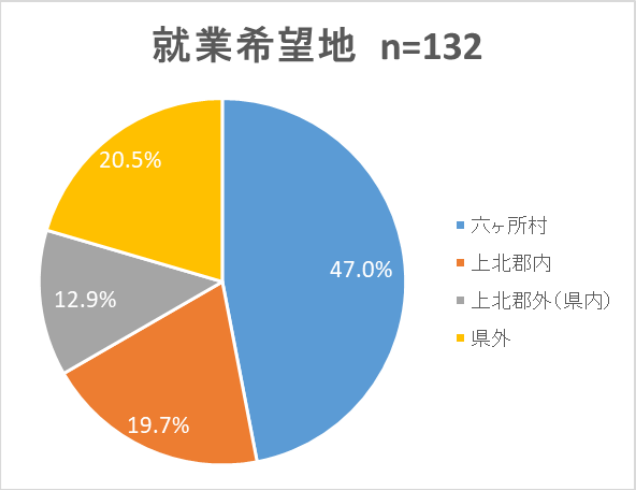


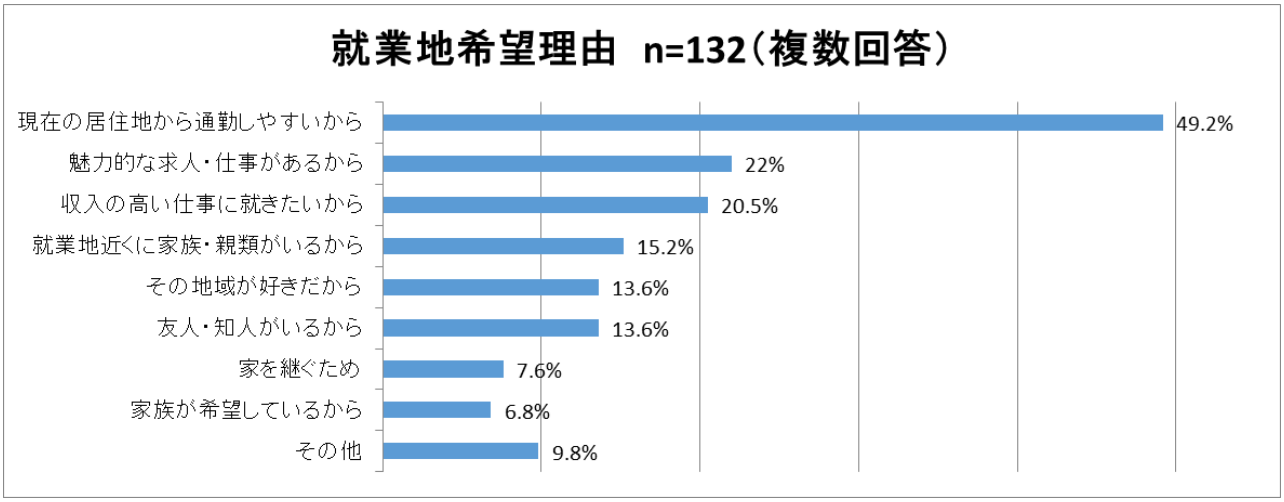
【その他】順不同

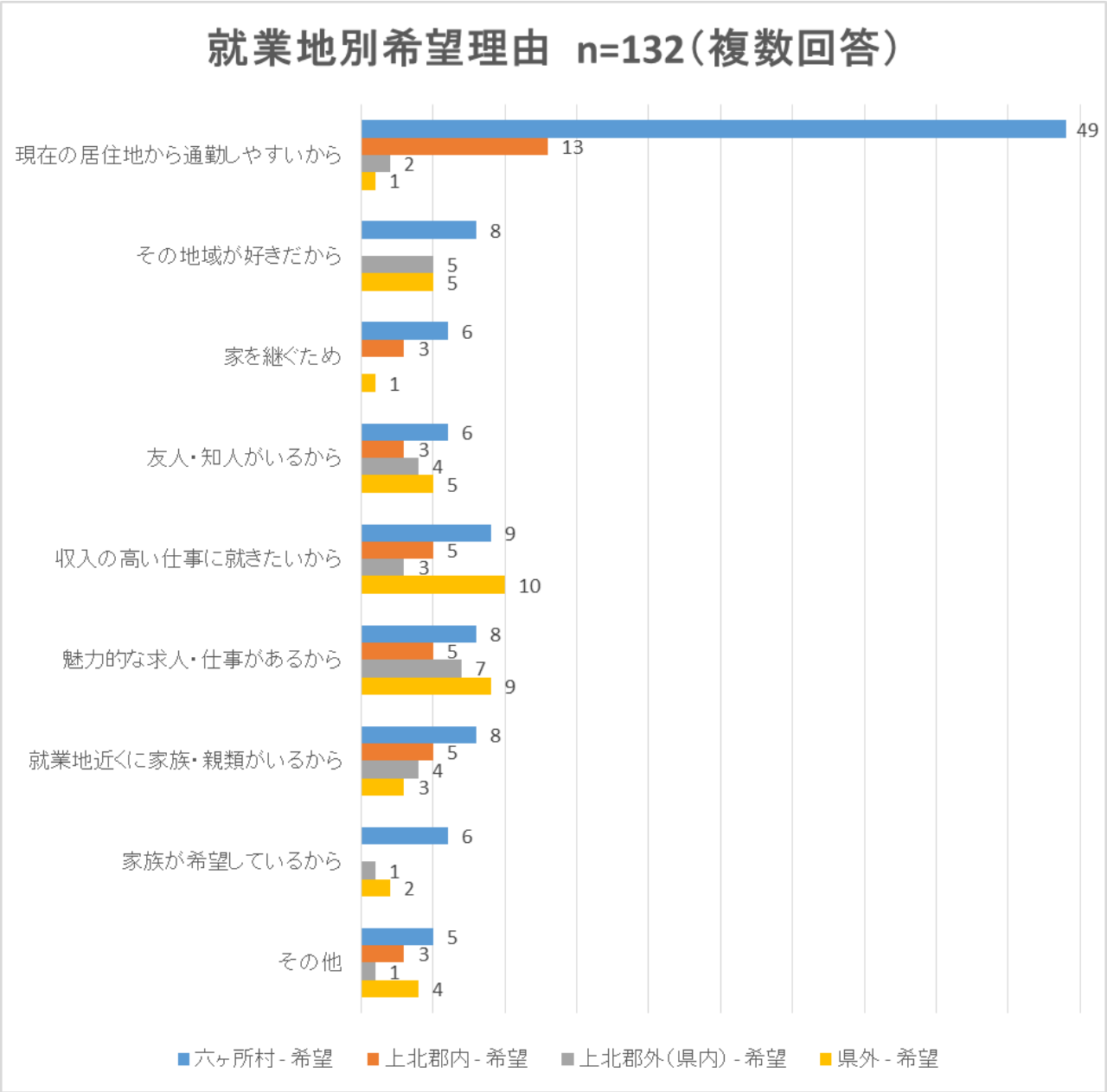
・仕事がしやすい環境、ストレスのない職場
・部下を思いやる職場
・年齢に応じた仕事があれば助かる
・メンタルにあわせた作業と、作業員が作業内容を選べる権利
・賞与があるところ
・仕事の時間を自由に決める事ができること、在宅勤務ができること
・社会貢献性の高さ
・趣味を活かせる職業

(5)　就業希望地・就業地希望理由

「新しい就職を希望している」と回答した方の就業希望地は「六ヶ所村」(47.0%) が最も多く、次いで「県外」(20.5%)、「上北郡内」(19.7%) となっている。その理由は、「六ヶ所村」「上北郡内」を就業地として希望する方は「現在の居住地から通勤しやすいから」を最も多く選択し、「上北郡外（県内)」を就業地として希望する方は「魅力的な求人・仕事があるから」を、「県外」を就業地として希望する方は「収入の高い仕事に就きたいから」を最も多く選択している。





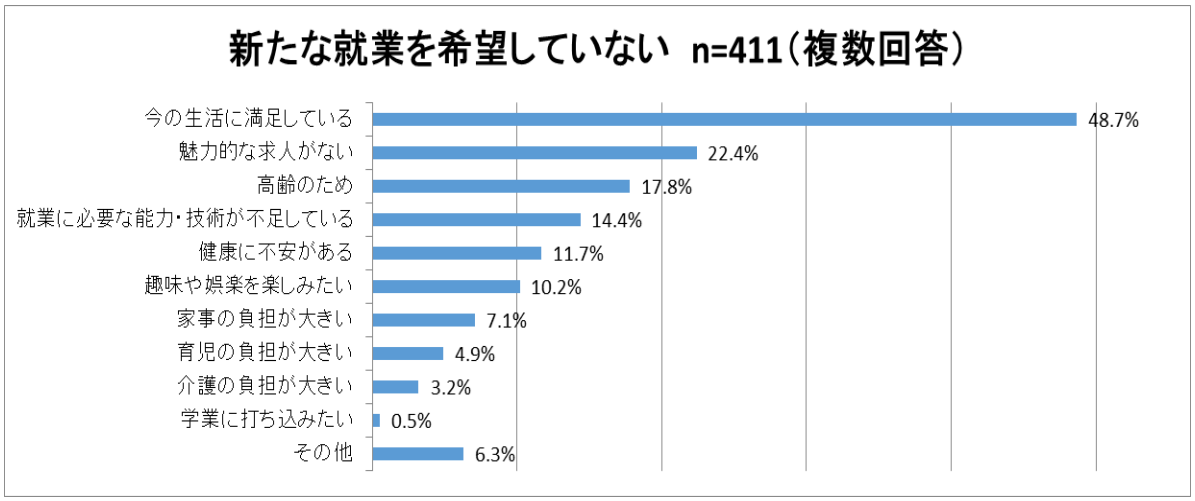


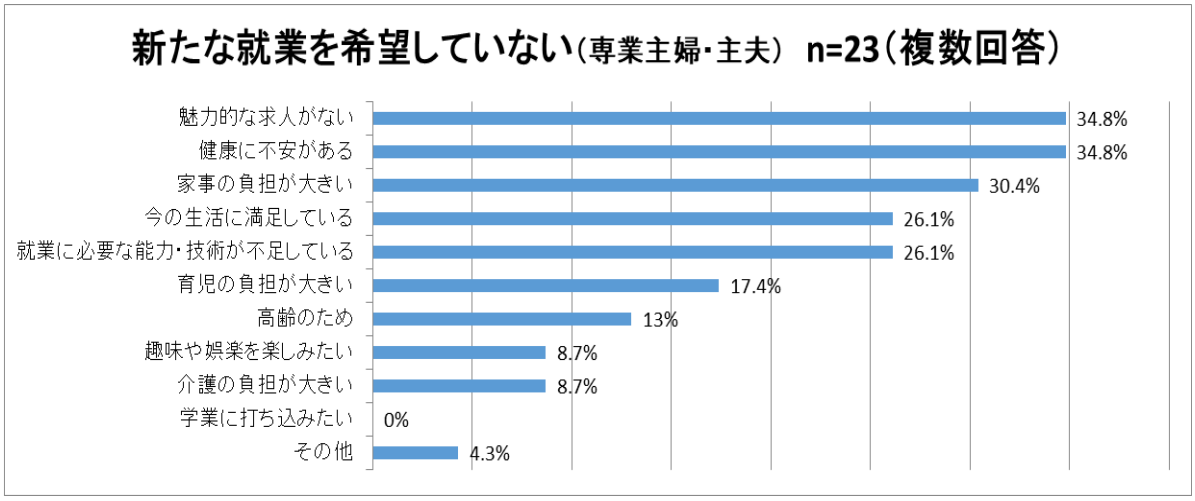
【その他】順不同
・子どもや家族の緊急時にすぐ対応できるから
・家の公共料金・税の維持管理の支出があるため
・出身地で実家があるため、好きも嫌いもふるさとだから
・自由に休みが取れるため
・利便性、生活の快適さ
・商業施設が多い場所を希望
・都市部へ出やすいから
・希望する職場が村外であるから
・いずれは外国に住みたいから

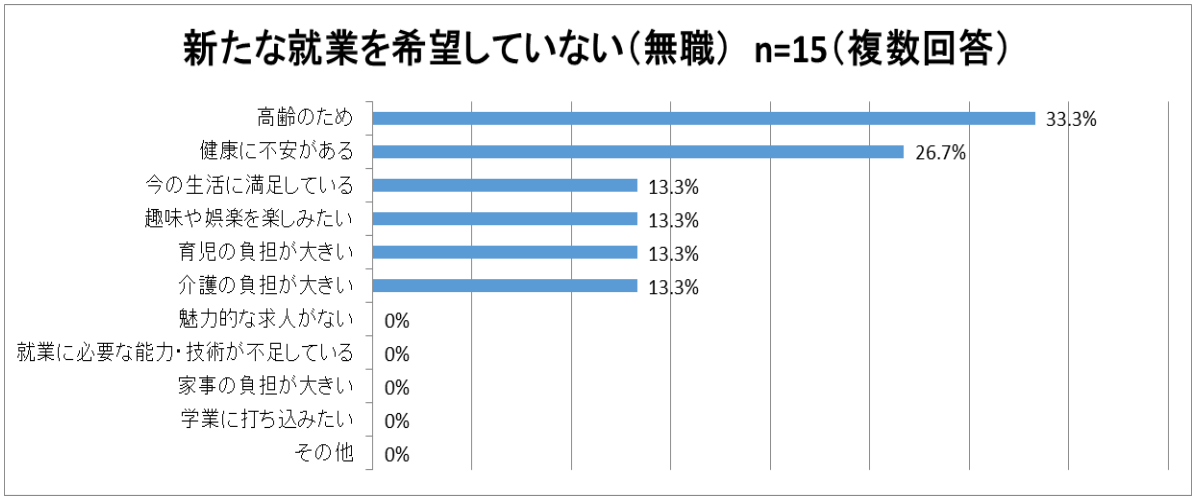
(6)　新たな就業を希望しない・就業できない理由

新たな就業を希望しない・就業できない理由について、全体では「今の生活に満足している」(48.7%)が最も多く、次いで「魅力的な求人がない」(22.4%)、「高齢のため」(17.8%)となっている。

「専業主婦・主夫」の理由は「魅力的な求人がない」「健康に不安がある」（34.8%）が最も多く、次いで「家事の負担が大きい」となっている。また、「無職」の理由は「高齢のため」（33.3%）が最も多く、次いで「健康に不安がある」（26.7%）となっている。







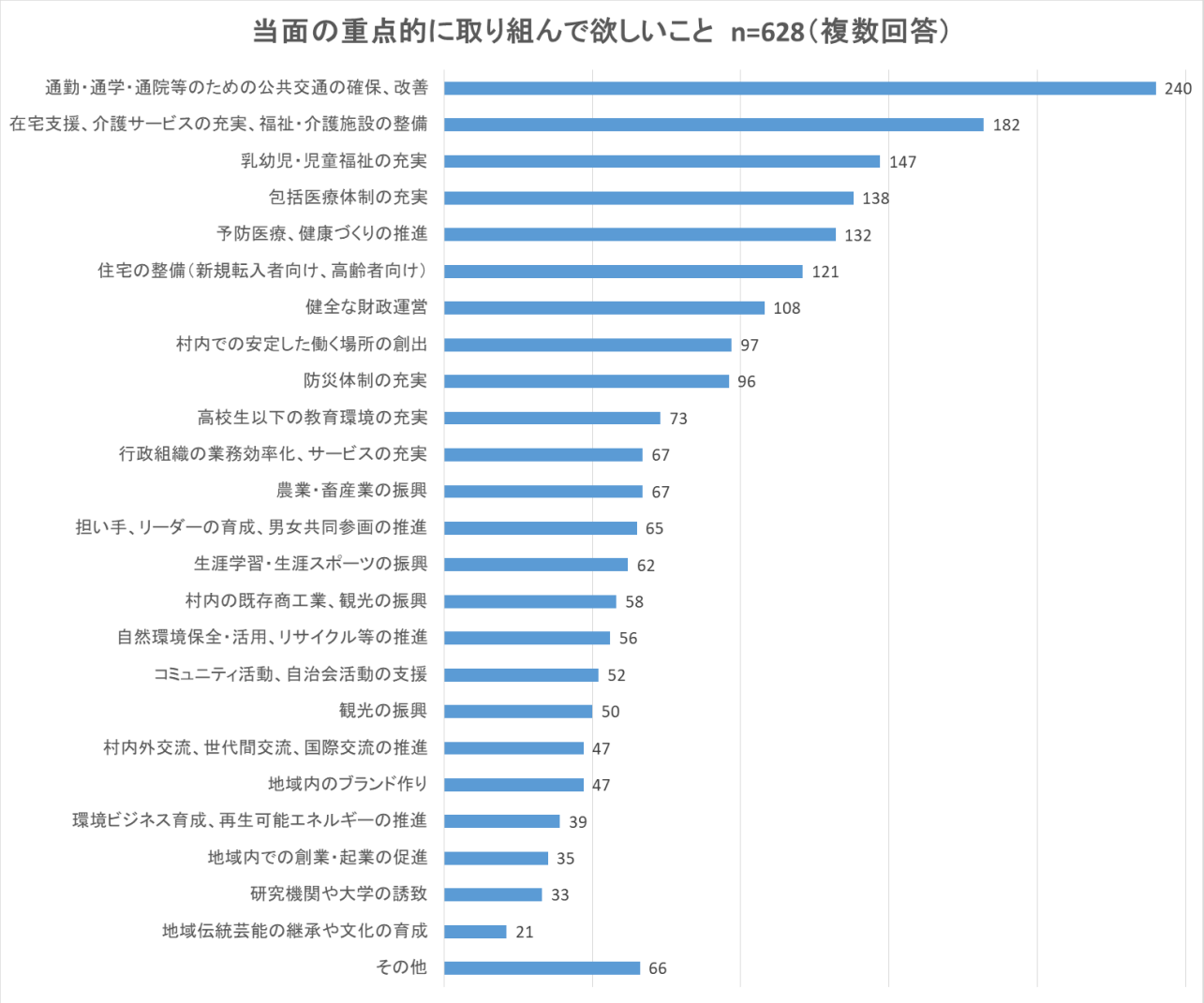
【その他】順不同
・特別生活するのに不自由な面がないため(通勤距離、給与等)
・再就職にリスクが伴い失敗する可能性がある、転職に不安がある
・今よりも好条件の職場が見つからない
・六ヶ所村には高齢者の働く場所がない、あっても清掃など限られている
・今の仕事に打ち込みたい
・会社員と家業の米農家を兼業中のため別業種は無理
・学生のため
・妊活中のため、子どもが産まれて落ち着いてから働きたい
・人間関係が煩わしいため
・六ヶ所には働き者がいない
・考えたことがない
・職場に迷惑をかけてしまう（人間関係悪化、人手不足）
・転居が煩わしいため
・自営のため

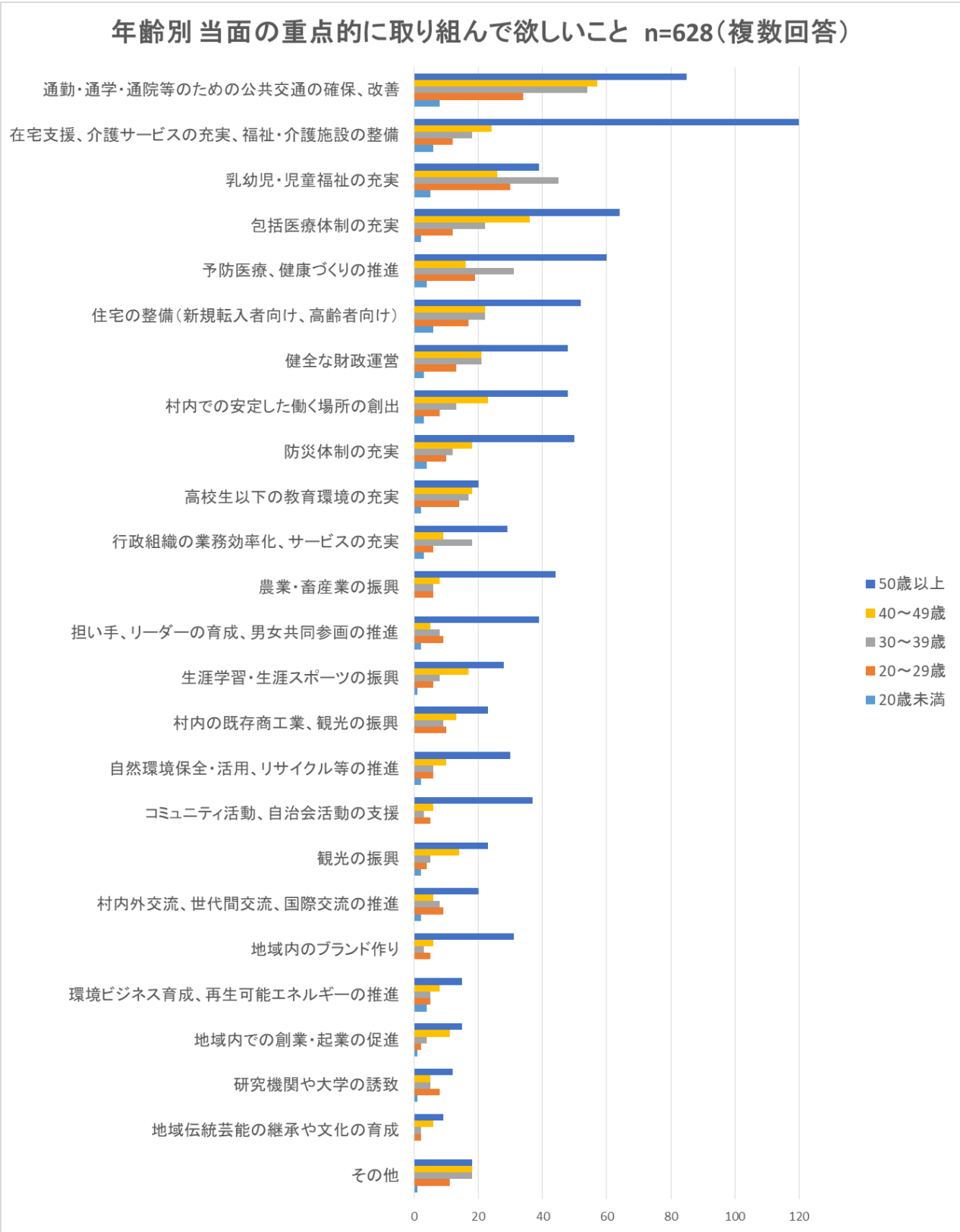
5　「まち」に関する調査

(1)　当面の重点的に取り組んでほしいこと

当面の重点的に取り組んでほしいことについて、「通勤・通学・通院等のための公共交通の確保、改善」(240 件）が最も多く、次いで「在宅支援、介護サービスの充実、福祉・介護施設の整備」(182 件)、「乳幼児・児童福祉の充実」(147 件）となっている。

年齢別にみると、「50 歳以上」は「在宅支援、介護サービスの充実、福祉・介護施設の整備」を、それ以外の年代は「通勤・通学・通院等のための公共交通の確保、改善」を最も多く選択している。




年齢別 当面の重点的に取り組んで欲しいこと n=628（複数回答）
通勤・通学・通院等のための公共交通の確保、改善
在宅支援、介護サービスの充実、福祉・介護施設の整備
乳幼児・児童福祉の充実
包括医療体制の充実
予防医療、健康づくりの推進
住宅の整備（新規転入者向け、高齢者向け）
健全な財政運営
村内での安定した働く場所の創出
防災体制の充実
高校生以下の教育環境の充実
行政組織の業務効率化、サービスの充実
農業・畜産業の振興
担い手、リーダーの育成、男女共同参画の推進
生涯学習・生涯スポーツの振興
村内の既存商工業、観光の振興
自然環境保全・活用、リサイクル等の推進
コミュニティ活動、自治会活動の支援
観光の振興
村内外交流、世代間交流、国際交流の推進
地域内のブランド作り
環境ビジネス育成、再生可能エネルギーの推進
地域内での創業・起業の促進
研究機関や大学の誘致
地域伝統芸能の継承や文化の育成
その他
0
20
40
60
80
100
120
50歳以上
40～49歳
30～39歳
20～29歳
20歳未満

※各選択肢に関する具体的な意見は以下のとおりであった。

【1.農業・畜産業の振興】順不同
・後継者の育成
・農業への関心を高めるための働きかけをしてほしい
・村内での廃プラ対応
・農地の集約化、大規模化
・大規模農家への空き農地集約
・農業ででた大量のゴミ置場等を近くに設置してほしい
・土着菌の活用検討
・担い手の結婚支援
・加工品の開発

【2.村内での安定した働く場所の創出】順不同
・臨時、派遣ではなく正規雇用
・子育てしながら短時間で働ける場所
・長時間ではなく４～５時間で働ける場所
・企業誘致
・高学歴者の職場
・日本原燃㈱関係の安定雇用
・村内居住者がなかなか働く場所がない
・原子力関係以外の選択もできるような働く場所
・安定しながらも自由に働ける場所がほしい
・給料が安すぎる。少し高くしてほしい
・残業代をきちんと払ってもらえる職場
・避難訓練センター

【3.研究機関や大学の誘致】順不同
・バックエンド充実のための誘致、廃炉、消滅、処理技術、各種分離技術
・六ヶ所高校と東北大学との連携
・レイクタウンに進学高校を設置してほしい
・高校まではあるためその先がほしい（大学誘致）
・地域づくりの分野を研究している大学のゼミなど誘致フィールドにしてもらう
・航空研究機関
・核融合関連研究機関
・原子力関係の研究拠点にする

【4.村内の既存商工業、観光の振興】順不同
・スーパー、ショッピングモールの誘致
・商店、飲食店の充実、活性化
・広大な土地を活かして花の植栽やオートキャンプ場など
・休日を過ごせる場
・お店をもっと増やしてもらいたい
・ファーストフード、ゲームセンター、本屋、床屋など
・六旬館の活性化
・ホテル誘致

【5.観光の振興】順不同
・宿泊施設を充実させる
・ろっかぽっかに宿泊機能を
・道の駅がわかりずらい
・エネルギーパークの充実
・レジャー施設
・キャンプ場などアウトドア施設の整備・充実
・自然を生かしたスキー場やキャンプ場
・釣公園の設置と運営団体の設立
・物産展の開催
・観光地の多い村になってほしい
・観光地の整備（マテ小屋周辺、滝の尻など）
・飲食店の充実、子どもの遊べる場所
・イオンモールのようなショッピングモールの誘致

【6.地域内のブランド作り】順不同
・バックエンド技術村
・未来都市構想
・村のキャッチフレーズやカラーを決める（若者にもわかりやすいもの）
・村自体のブランディング
・一軒一品ブランド化、一村一品対策
・泊の海に特化したもの
・泊のウニ
・泊で採れたひじきや寒天を使用した和菓子などをもっと作るべき
・特産の魚介類を利用したブランド作り
・大間マグロのようなブランド
・魚の養殖（黒鮪等）
・地ビール
・お土産品開発（菓子等）

【7.地域内での創業・起業の促進】順不同
・宿泊、アパート、貸家業
・土建業以外の事業者
・野菜工場、田んぼアート
・村にない分野の起業に対して手厚く支援する（パン屋など）
・商業(飲食店等)サービス業への支援
・サービス業の充実
・フリーランスの誘致
・貸し店舗の整備
・未経験者への支援など
・新規の産業を起こす
・合同会社等の設立

【8.高校生以下の教育環境の充実】順不同
・試験で大学進学できるような学力向上
・成績をアップさせる。特に理科系。
・中学校の合併による競争意識の高揚
・大学進学率向上
・高校の選択肢を増やす
・高校の通学可能地域の拡大（六ヶ所高校以外）
・村外進学時に手当てを厚く
・六ヶ所高校の発展
・ICT の充実、六ヶ所高校の尾駮移転
・小中高大一環校
・衛星授業等、予備校と連携して教育格差を是正する
・塾の充実
・原子燃料サイクル事業に関する教育
・職業体験
・行政と連携した地域教育の検討
・習い事が少なく選べない
・インターナショナルスクールに小中学生の日本人も通えるようにしてほしい
・尾駮こども園のイベントを増やしてほしい
・資格の補助金

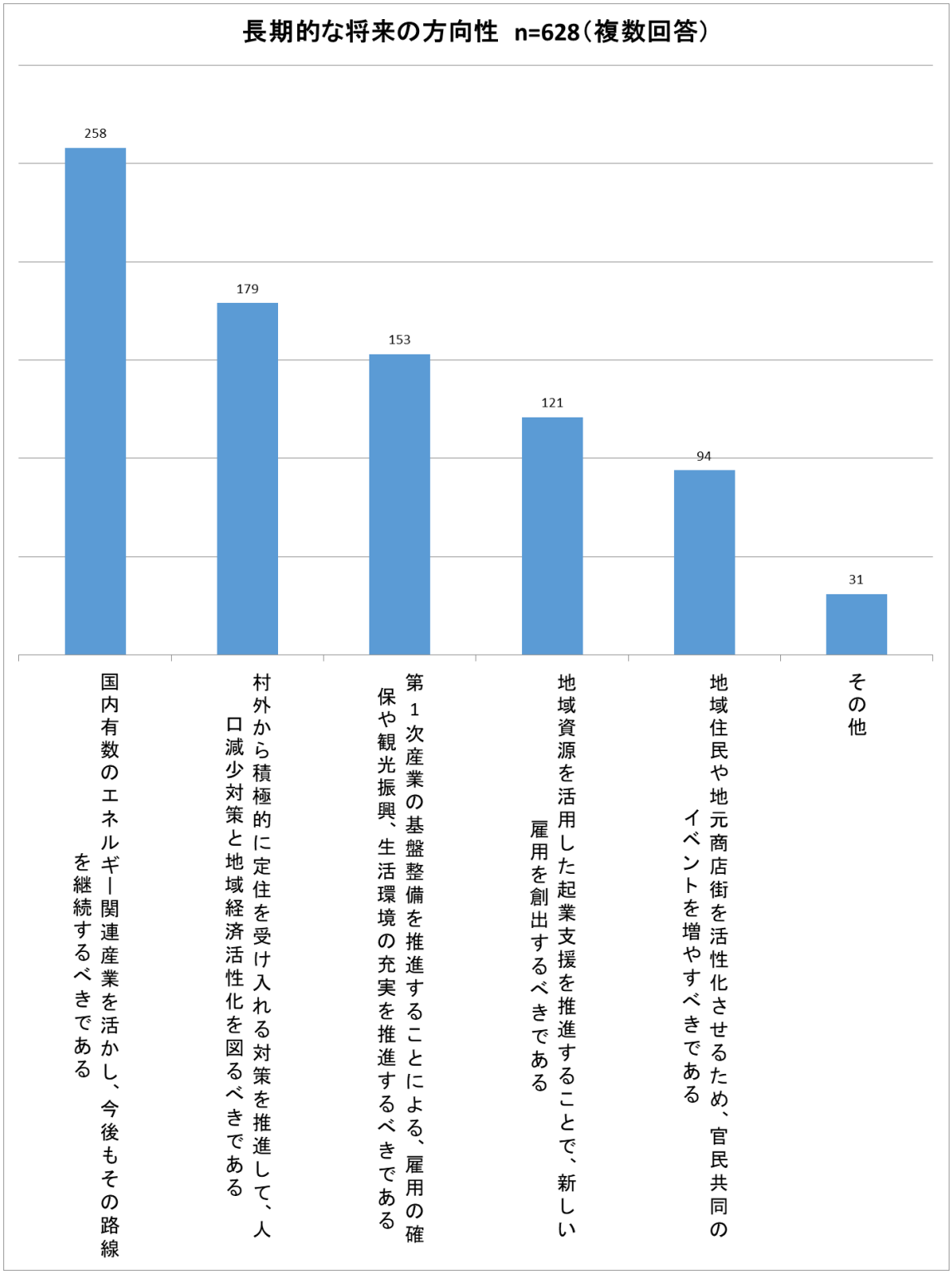
【9.生涯学習・生涯スポーツの振興】順不同
・送迎バス等の対応
・スポーツ施設の充実
・何かのスポーツ種目で日本一になる
・子どものスポーツの機会を増やす
・大石総合公園やろっぷ等を活用した他種目講座
・ろっぷなどの有効活用、合宿所などの整備
・低料金で宿泊できる合宿所の建設
・コーチ、指導者の安定
・専用（専任）施設、スポーツの村と唱えている以上このような施設があってもいい
・スポーツレジャー施設
・文化祭向けの作品作りのみではなく、回数を多くしてほしい

【10.地域伝統芸能の継承や文化の育成】順不同
・泊まつりなど地元の祭り

【その他】
・子ども園から英語教育推進
・婚活
・買物できるお店や外食できるお店の充実
・村内バスの運行が少なすぎる
・公共交通機関に便利に乗継ぎができると良い
・交通渋滞対策をするべき
・外食施設の誘致（マック、すき家等、日曜日の外食）
・街灯が少なすぎるから増やしてほしい、危ない、暗い
・商店の拡充、誘致
・ラジオ電波の改善
・インフラ整備
・動物と触れ合える施設
・三沢市のソライエみたいな幼児が屋内で遊べる施設を作ってほしい
・何をしているのかわからない
・郊外型大型商業施設誘致
・韓国との交流はやめてほしい
・娯楽施設、スーパー等をつくってほしい
・六ヶ所高校の入学生徒数の増加への取組み
・村道以外の私道の整備
・子ども同士の交流も促進してほしい

(2)　長期的な将来の方向性

長期的な将来の方向性について、「国内有数のエネルギー関連産業を活かし、今後もその路線を継続するべきである」（258 件）が最も多く、次いで「村外から積極的に定住を受け入れる対策を推進して、人口減少対策と地域経済活性化を図るべきである」（179 件）、「第１次産業の基盤整備を推進することによる雇用の確保や観光振興、生活環境の充実を推進するべきである」（153 件）となっている。



【その他】順不同
・再生可能エネルギーを増大させ村の電力を賄えるようにする
・小児科がほしい
・医療センターに耳鼻科・皮膚科・眼科等の常駐医師
・充実した病院の確保、眼科や耳鼻科がほしい
・病院（小児科、専門科等）へ車で 30～40 分かけて行くのは小さい子どもがいると大変
・集落内に地場農産品を販売できる小規模施設
・レンタルショップやショッピングモールの充実
・レジャー施設（キャンプ場、ログハウス）の建設
・住んでいる村民の生活環境の充実
・中央レベルの企業誘致、大卒者の働ける企業
・育てる漁業、観光、漁業への移行
・まともな病院や商業施設、公共交通機関もなく、住みたいと思わない
・村内において伝えるべき事象はない
・原子燃料サイクルに頼りすぎないこと。六ヶ所村は雇用も財源も当事業ありきで動いているが、今後なくなった場合を考えるべき
・方向性がわからない
・商業施設の誘致（衣類、電化、靴など）
・スーパーやファミレスなどを増やしてほしい
・レンタルショップ（DVD,CD 等）、ファミレス
・ネット環境の充実、Wi-Fi が外で使える場所を増やすとか
・村内の娯楽施設及び、買い物施設の誘致（マエダの質が悪すぎる、他店比較）
・空き家や土地の有効活用、公園の増設
・ハコモノではなく、ソフト面の充実、特に人材の育成教育
・行政のレベルアップ
・粗大ごみ等リサイクル BOX 等の設置

(3)　将来像

自分の子どもや孫の世代に残したい、伝えたい将来像については次のとおりであった。（順不同）

・自分のことは自分でやって、余力で他の人を助けることで無理なく助け合える。
・六ヶ所村の自然豊かなところ。公園や医療施設が充実しているところ。緑が多くてリラックスできるところ。大人がのんびりしている。おおらかな人が多い。
・若い人達が中心になって活気ある村づくりをしてほしい。
・若い世代に地元愛をもってもらいたい。
・豊かな自然があるので、それを本当に大事にしてほしい。エネルギーパーク（太陽光パネル）は増えすぎて違和感がある。風力も環境を考えて設置してほしい。共存、共栄の社会を作ってほしい。
・子どもや孫の世代が県外に就職に出て、将来的に県内（地元）に戻ってきたときに「地元に戻って良かった」と思えるような環境を作っていかなければならないと思った。
・地区の民俗芸能等の伝承、地区のふれあい祭り
・エネルギー関連産業で発展してきたが、六ヶ所村にしかない自然も大切にしていきたい。六ヶ所村全体で子ども達が参加できるような祭りがあれば良いと思う。（青森ねぶた祭り、八戸三社大祭のような）
・安心して暮らせるまち
・子どもや孫が遊びに来た時に、おいしい物をたくさん食べさせてあげたいと思っている。ＢＢＱは大喜びで海が大好き。青森県は海に囲まれた県で、何か楽しいイベントがあれば参加したい。
・泊の磯の文化を残してほしい。ウニ、アワビだけでなく、磯の恵を感じられるように。そのためには密漁させないことが第一。正規雇用者が多くなればいい。村の職員もアルバイトから正規の職員にしてあげてほしい。そしてその分プロの仕事をしていただきたい。六ヶ所で働くイコール正社員となるように。
・自然豊かな地域だからこそ学べること、経験の大切さ
・六ヶ所村に住みたいと思うようなまちづくり。仕事が六ヶ所だから住むのではなく、住みたいからこそ近くの六ヶ所で仕事を探したいと思えるようなまちづくりと、働く場所を作ってあげたい。今のままでは若者が減っていくだけ。
・地区のお祭りでお年寄りから子どもまで集まって食べて、飲んで、歌って、踊ってできるのがいい。ここに来てステキだと思うのでずっと参加していきたい。
・安全安心な地域づくりと安定した収入が得られ、生きがいのある村
・自然は自然のまま残しつつ、新たな雇用を生み多くの若者がこの地で頑張りたいと思えるような村であってほしい。
・地域エゴのないまちづくり
・自分の仕事、会社の仕事は地域のため、自分のため、会社のためであることを強調したい。
・原子燃料サイクルに頼らない未来

・将来は村で育った子ども達が通学や就職などで村外、県外へ出て行ったとしてもいつか六ヶ所村へ戻り、村外で見聞したことや得てきた経験、知識を村の運営、生活に生かすような仕組みができていれば良いと思う。いわゆる、中国で起こっている様なウミガメ政策のような。そのためには、学費の補助とかUターン制度を充実させる必要があると考える。外の世界から学んだ良い点を村の行政に生かすことができれば、村も更に住み良い場所になると思う。
・幼少の頃からやりたい職業を考えそれを目標に進んでいくこと。
・エネルギー産業のおかげで貧乏だった六ヶ所村から抜け出したことはそれなりによかった。失われてしまった第一次産業で生活できる若者が増えるよう援助してもらいたい。安心して世代交代できるような産業にできたらいい。
・村はインフラ整備に力を入れてほしい。特に冬場の吹雪、路面凍結防止対策等、南北に長い道での交通障害の排除に力を入れてほしい。経済的には他の地域に比較すると恵まれている感じがするので住環境に力を入れて、村外への流出防止が必要だと思う。また、治安のため防犯カメラの設置等を強く要望したい。
・屋内で運動する場所を作ってほしい。冬季の場合、部活動で体育館が狭くてなかなか体を動かせず中学生達が力をのばすことができないかと。(小さな子どもも屋内で遊べる場所がほしい。冬季はゲームなどしてとても悪い。)
・水道光熱費、国保税を安くする。
・自然を残しつつ生活環境を整備してほしい。
・高齢者のための福祉バスの充実を図ってもらいたい。現在よりも増便してもらいたい。
・少子高齢者化になっている状況であることから、村としてスクラップアンドビルドを強く推進するべきである。ハコモノの建設は極力避けるべきである。維持管理等が大変憂慮される。
・交通制を便利にしてほしい。
・100 円バスや鉄道レールバス、利用料金の安い交通手段
・病後児保育をもっと充実してほしい（三沢を利用している→遠いため仕事に影響)、泊の海をもっと子どもに使用して生き物と接して知ってもらう。プールではわからない自然の大切さ、泊の海藻をもっとブランド化する。雇用も増える（泊在住の女の人とか）
・テイクアウトできる飲食店のチェーンが増えたらもっと生活の時間に余裕ができると思う。将来的に産婦人科がほしい。
・村内のみで充実した生活（娯楽）があまりに少ない。イベントも開かれているが、主催側が楽しんでいるだけに感じられる。若年層の定住は難しいと思われる。
・子なしは将来像を語る資格はないのでしょうか。
・商業施設や医療施設が充実していないと村内定住は難しい。更なる充実を希望する。
・買い物に不自由なく、気軽に友人と遊べる場所がほしい。自然が多いのは良いが、いらない公園を作るより木を植えてほしい。
・住みやすい（住みたい）環境を作っていただきたい。
・抜本的改革
・大手企業等の商業施設の誘致
・税金の安い住みやすい村

・道路の改善（修理等）
・道路、避難場所の充実
・穴の開いていない国道、道路にしてほしい。いつもあいている。ハコモノはやめて、道路を整備してほしい。
・買い物をする場所がない
・商業店舗を増やしてほしい。娯楽施設も
・クラブ活動の送迎（土日祝の試合等）
・ショッピングセンターが少ない
・買い物しやすいまちづくり
・婚活
・買い物など商業施設の充実、水道水が他市町村に比べて美味しくない。
・子ども達の安全を確保する。
・ゴミは道端に捨てない。
・「日本」という国は残したいと思っている。
・何もない、期待していない。
・六ヶ所村の将来性が見えない
・英語＋韓国語＋中国語＋フランス語かスペイン語かドイツ語などマルチリンガル、多言語（5 カ国語以上）を話せる人材を育てる。或いは外国人から取り入れる。効果的な言語学方法を習う。
・今は、原子力等の関連施設があり、少なくとも村は人口も収入も成り立っているかもしれない。しかし、もし仮に倒産などして会社も人もいなくなってしまった時を考えて、村のシンボル的な何かを考えていった方がいいと思う。
・エネルギー事業の継続、農業の経営を共同形態にして大型化し、効率のよい農業を目指す。農業関連の商品開発もするべき。観光産業を新たに考えるべき。
・泊方面にも形の悪い長芋や野菜のわけあり商品をもっと売るべきだと思う。泊地区では野菜を売る店が少なすぎる。そのため長芋の値段が高すぎる。

６　人口減少や少子高齢化に伴う地方創生事業等に関する自由記述

人口減少や少子高齢化に伴う地方創生事業等については、次のとおりであった。

なお、検索性を向上させるため記載されたご意見等を分類分けしたが、いずれも複雑に関連するものであり、特定の分類にのみ当てはまるものではないことに留意が必要である。（順不同）

【全体的・複合的な意見】

・エネルギーと自然とスポーツの村
・自然と調和した先端エネルギー地域、村民の科学知識の向上と文化レベルアップ
・村内には多数のエネルギー関連施設があるため、これらを最大限に生かし、活気のある村であってほしい。また、地域には商業施設や飲食店もあるため、これらが将来も継続していてほしいと思う。
・自分のやりたいことを見つけ、それを実現できる村
・エネルギー産業に依存するだけでなく、自力経営できる六ヶ所村
・最先端技術を学べる国内でもトップレベルの学園都市
・六ヶ所村のポテンシャルがあれば 5 万都市くらいにはなれる。世界でも有数の未来型都市を目指すべき。
・「原子力の村」だけどそれだけに頼り切らない。豊かなモノ（多様な仕事・充実した設備・もともとある大自然）と力（人の手による様々なサービス（行政も民間も）・レジャー娯楽の充実）のある村
・村には、日本の四季、自然の風景と我が国唯一の原子力関連施設や石油備蓄基地などエネルギー関連産業が集積する地で、我が国にとって重要な地域であるとともにこの地域で暮らす住民にとっては故郷であることに変わりない。これからも産業と自然、仕事と生活の場が共生するそういう村であってほしいと思う。
・六ヶ所村の良さをアピールすべき。農漁業、エネルギー、科学技術の学習できる場が必要。もっと事業者、住民が一緒になって取り組んではどうか。市民大学が良い。また、自然、鳥、生き物、天台が良い。六ヶ所村は鳥の鳴き声と夜空が良い。
・今のような子育てのしやすい村、もっともっと住んでいて良かったと思えるような村にしていってほしい。
・出生率と人口増加・維持のための施策について、失敗や損失を恐れず、長期的かつ粘り強い計画・試行がなされればすばらしいと思う。
・目先のことばかり考えず 50 年～100 年先のことを思いできることはたくさんある。
・人口減少は避けられないと思うが、村の場合、仕事で昼の流入人口が多いので住民となったときのメリットが感じられれば人口はそう減らないと思う。
・しばらく人口減少は止まらないし少子高齢化も進んでいく。人が集まる所で消費活動とサービスの供給が発生するので、人を集めるために建物やなんかを作って幾度も失敗してきている。自分で集客するのではなく各人で話題のところに行って帰ってくる、住むのには適していると言うほうが時代にあっている気がする。
・UIJ ターン推進で県内に帰ってくる人、転入してくる人をもっと増やして、青森県自体を

活性化してほしい。
・子育てが終わった世代として六ヶ所村に永住してもいいかなと思いながらも、結婚して子どもを産み育てる方々にはなかなか住みづらいと考える。妊娠しても診てもらう所がない。医療機関が少ない。子どもの教育においても選択肢が少ない。入学祝金など他の市町村にはない魅力的なものがあるが、将来的な部分に不安を感じる。自分の子ども達にも帰って来て六ヶ所村に住みなさいとは言えない。交通の便の充実、医療機関（産科）の充実もお願いしたい。保育園等があることだけで満足している気がする。保育士自身のレベルアップが子ども達のレベルアップにつながると思う。
・個人の生活を豊かにしないとバブル期のような人口増加は期待できない。
・人口減少が進まないよう魅力ある村になってほしい。
・子育ての環境をより一層見直す。（子ども 3 人の家族には今以上待遇を良くする等）高齢者が多く施設が少ない。金額も社保より国保の金額を安くしてください。
・村の立地地点のデメリット(大きな市からの距離が遠い）を道路整備等で補いつつ、他市町村よりも若年層が多いことに着目して、子育て支援の充実、医療や教育の充実を図り、村全体に活気が出るような施策を行ってほしい。
・三沢市に行くバスが平沼止まりなのはどうなのか。尾駮や泊まで走れないのか。人的サービスをもっともっとほしい。ファミリーサポートを始めてほしい。職場があるから住んでいるだけというのが本音。民間のイオンのような遊び場、土曜も見てくれる各科専門病院、日曜日も営業する飲食店等、週末や休日も楽しめる地域づくりを目指してほしい。今のままでは休日はほぼ村外で過ごし、いずれ村を出て行く日が来ると感じている。
・今の村は「住みづらい」と感じる。特に子育てをしていくには。「村内に小児科があれば」「もっと買い物の選択肢がほしい」「車で 1 時間以上かけて移動しないとチェーン店や娯楽施設にいけない」「公共交通も少ない。通勤バスはたくさん走っているのに、一般人は自力なのか」
・交通を便利にして、イオンなどのショッピングセンターや宿泊施設などがないと人口減少になる。コンビニも多くするとか村全体を開拓していくことが大事である。
・商業施設が少なすぎる。Ｕターンできる環境(原子力だのみしかない)、泊の海を全く活用してない。お金をもっと有効に使ってほしい。
・人口減少に悩む自治体は数多いと思うが、他方、成功している自治体も多くある。それを参考にして対策を立てる必要がある。また、企業誘致においては、道路環境も含まれていると思う。原子力の交付金をあまり期待しない独自の村内企業を育てていく必要もあると思う。この村は基本的に生活していて楽しみがない村だと考えている。
・少子高齢化や都会への人口集中により、地方は増々人口が減ると思う。人口減少に歯止めをかけるのはきわめて難しいと考える。それを踏まえると地方では老人介護と税収の問題が深刻になると考える。それを解決するには医療施設の集中化と遠隔医療の推進、医師の確保が必要だと思う。税収については、やはり、企業の誘致が最も効果的で私の住んでいた地域、例えば福島県の西郷村や茨城県の神栖市は、企業が何社も工場を建てているため、六ヶ所村と同様に財政がとても良い所でしたし、たくさんの求人があった。青森県は本州の末端で地の利がなく、雪も降るので工場などは運営しにくいことが進出のデメリットだと思うが、近年は物流や通信が発達しているので、かなり緩和されてい

ると思う。具体的には、野菜工場や半導体工場は有望だと思う。また、村民は、極力村内で買い物をして、地元にお金を落とす意識が大切だと思う。
・自然を整備(奥入瀬渓流のような観光を)、農業や酪農、漁業にＡＩ技術を積極的に取り込む、幼い時からからインターネットプログラミングを身近に触れられる環境
・文化（スワニーのコンサートや演劇)、教育（ＩＣＴの活用、温水プールの活用、地域の活動(民俗芸能)とのコラボ)、スポーツ（様々なスポーツ競技で頑張っている人達がいること）を多くの人に知ってもらいたい。
・行政（子育て支援、居住環境づくり、時代に応じた都市計画等の見直し)、行政+民間（地域の人々が交流できる場の提供、婚活支援、テレワーク等の職場環境の改善、大型商業施設誘致）
・だいぶ生活レベルは向上しているし、環境も充実していると思う。現状を維持しつつ、今後の向上を願う。
・転勤等のある企業が多いため定住住民を支援する対策があっても良いと思う。
・明るく楽しい環境にしたい
・「勇気ある撤退」も選択肢として考慮すべき
・病院、学校、職場等、村内で済ませることができる。
・村内の生活を豊かにしてください。

【郷土愛・シティプロモーション】
・「何もない村」ではなく、「力強く成長している村」とみんなが誇りを持てるようになっていたい。そのためには、村民がもっと村のことを知り、語れるようになることが必要。シティプロモーションの中でシビックプライドは醸成されていくと思う。
・ふるさとを思う心を大事に持つこと
・六ヶ所村内の魅力をアップすることで、村外の人達が六ヶ所村に来たいと思えるような村になるのではないか。自分の村を他の市町村に誇れるような村であってほしい。

【平穏な暮らし・家族】
・エネルギー関連施設で働きながら又はその事業に関わりながら、自然豊かな村内で子育てをしながら生活していく。たったそれだけのささやかな毎日がずっと続いてほしい。
・豊かな自然の中で平穏に生活でき、時には図書館や技術関連施設で最先端の未来にも触れられる環境が理想
・六ヶ所村内にマイホームを建てて、家庭内仲の良い家族を築くこと。
・子が親のためになるのではなく、親が子のためにある未来が理想である。
・今が暮らしにくい貧しいという訳ではないが、今より少しでも生活が充実しているといいなと思う。
・数年後、数十年後は本当にどうなっているのか分からないので、笑顔で過ごせているといいなと本当に思う。
・にぎやかに不自由なく生活しているかどうか。

【出会い・結婚】
・平成以降の人は恋愛が苦手だと言うので何をしたらいいか分からないが、恋愛のよさを伝えたり学ぶ場を作ったり、恋愛を促すような体験があれば面白いのでは。
・私たちが子育てしている頃から見れば今は恵まれている。息子が 2 人いる私ですが、30 歳を過ぎても彼女も作らず、休みの日も親と一緒にいます。婚活ができる場所がほしい。孫の顔が見たい。
・30 代、40 代の未婚の男女の出会いの場を多く設けてほしい。
・今の人達は昔の様にお世話をしてくれる人がいないので、出会いが少なく、結婚する人も少なく、村外の人と出会うことも難しい。六ヶ所におせっかいなオバサンがいたらなと時々思う。一人でいる青年たちを見かけると、ああ、本当に若い人なのに誰かいないのかなと思う。
・結婚してほしい。家庭を持ち、守るものができ、人は成長していくから。その結婚がうまくいかなくても一度はしてほしい。
・人口減少対策として、結婚を推進することから始めていただきたい。そのため、現代に合う男女の出会いの場を作ることが重要と思う。例えば、大自然を残すためのボランティア活動を村が企画する、一次産業発展のための勉強会や合同作業の場を村が企画する、品種改良のための先例調査を作り、村の独身男女を参加させる。（費用の補助も出す）つまり、外から人を呼び込むのではなく、村で生まれ育ったもの同士が出会い交流を深め、人口を増すことを村が真剣に考えることが重要
・人が集まることにより、出会いがある。

【地域交流・世代間交流】
・伝統文化の継承・地域の交流がなされている。
・地域交流会や祭り等を多ければ月 1 など行っていければ、楽しい生活を送れそう。
・子どもとおじいちゃんおばあちゃん達が、お互い笑いあいながらコミュニケーションをとれる環境が必要だと思う。
・地域の人達が共に助け合い、みんなが健康で安心して過ごせる環境
・高齢の方や小さな子どもを地域全体で見守るような村になればいいと思う。（世代間の交流も含めて）
・異世代交流のある村、自然の豊かさ、安全な村
・各地区自治会の協力を得て高齢者の憩いの場、集まれる場があると良いのではないか。
・学習、サークルの場がもっとほしい。ソフト、ハードともに。発表の場がもっとほしい。

【医療】
・先進医療の充実
・充実した教育と医療
・紹介状がなくても、誰でも受診できる医療機関が充実していること
・医療の確保(高齢者、幼児だけでなく村民全員が無料で医療を受けられる）
・「六ヶ所の地で住みたい、働きたい、帰って来たい」そんな風に感じるには、普通の生活ではなく何か困った時に頼れる環境づくりが重要。医療はその中で最も重要であり、様々

な地域から移り住んでいるこの地は「他と常に比較」されている緊迫感を持ち、実現できなくとも意識し、努力し続けるべきだと考える。そんな前向きな姿を理想とする。
・インフルエンザの予防接種は年代に関係なく無料にするべき。
・高齢者に予防接種無料化は不要、補助で十分ではないか。子ども達が健やかに育つよう無料化補助するべき、若い世代の人達に本当に何が必要か考えるべきではないか。
・医療費無料は高校生までを希望する。（なぜ中学生までなのかわからない）
・産婦人科が設備や医師も含めて充実していること
・経済的に周辺の町に豊かだとよく言われる。ぜひ、産婦人科をと思う。子どもをいつでも不安なく産めれば、他町からも妊婦さんが当村に検診に通ってくるし、人口増にも繋がる。
・4 月に 2 人目が産まれたが近隣に産科がないため八戸市で出産した。八戸市外から行ったため追加で料金がかかった。近くになくてやむを得ず八戸市まで行っているのに、料金は割増。何とか、村で分娩できるとまではいかなくても検診できる婦人科でも設けることはできないか。臨月に週 1 回毎週八戸市まで大変だった。青森市、むつ市まで行く人もいると聞いた。あと、小児科もぜひつくってほしい。
・妊婦が安心して産める病院の整備（野辺地病院産科の再開）。妊婦が安心して働ける職場づくりの手助け
・六ヶ所で最も不便なことは小児科がないこと。どのお母さん方も時間がない中、遠方まで診察してもらいに行っている現状を変えてほしい。
・母親、特に若い母親が心配するのは子どもの病気。夜中の発熱、お腹が痛いとか、特に乳幼児は、いつ病気になるのかわからない。だから母親は病院に近い場所を第一優先に考え町や市に住むのだと思う。村は、医療機関（乳幼児科）の 24 時間体制を充実することで、人口減少、少子化の防止に繋がるものと思っている。
・安心して子育てや出産のできる病院が村内にはないため、婦人科や産婦人科の整備をしてほしい。今のままでは出産し、子育てをしたくても環境が不便すぎて不安しかない。子育て支援等、金銭的な面でのサポートも重要だが、医療の面からのサポートも充実させてほしい。
・小児科専門の病院がなく、総合病院のため待ち時間が長い。
・六ヶ所村で子育てをしてみて、小児科の先生が（村内に）いないため、体調を崩すと毎回遠方まで受診しに行く状態。もう一人、子どもがほしいなと思う反面子どもを産む病院がないことや、受診が大変なことを考えるとなかなか子作りに・・とはならない。
・六ヶ所村は子どもを産みたいと思える充実したところもありますが、病院の中でも主体となっている医療センターは小児科として成り立っていないため、子どもが高熱を出してもずっと待たされる環境があり、お母さん方は大変でも三沢市や青森市などに車で連れて行く話をよく聞く。そこを見直し、改善してほしいと思う。
・専門の医療機関がないので通院に困る。冬に遊べる施設がないので、冬でも体を使って遊べる施設（屋内）や屋内イベントを増やすのがいいと思う。
・人工透析をしている知り合いが複数いるが、他町や他市へ通院・治療している。自分も高齢で体も弱いので、村内で通院・治療できるようになればいいと思う。

【出産・子育て】
・出産、子育て支援及び医療の充実
・少子高齢化が原因で人口減少と考えるのでまずは子育てのしやすい環境が必要。保育に力を入れ働きやすい村を目指したら自然と他県からの移住者も増え、地元で暮らし続ける人の増加へと繋がるのではないか。
・子どもを保育園に預けて働きたいが、入れないと聞いた事がある。だから六ヶ所村を離れて三沢市とかに住宅を建てたりして離れてしまうのではないか。うちも今、六ヶ所を離れる。それで、子どもが病気でも保育園に入れる様にしたらいいのではないか。仕事を休めない人もいるので、そういう保育もやった方がいいと思う。
・南地区在住だが、この少子化の中やたらと大きい保育園を建てるよりは、葬儀ができるホールを建ててほしい。少しはお金の使い方を考えてほしい。
・子どもに対するケアが少ない。
・育児・介護両方とも頼れるところがあったら良いと思う。働く世代がやりたいことを諦めなくてすむように、村内外問わず助けあえるような仕組みがあれば良い。
・共働きの家庭が多いこの頃、子育てをする親にとっては見てくれる親もいない人が多い。風邪をひいたときに預かってくれるような、子育てを支援してくれる仕組みの何かを立ち上げたらどうかと思っているが、どうすればいいかも分からず。保育園はすぐに帰らされるから絶対に需要はあるはず。
・子育てに関する費用等十分に助成する環境がないと、今後子どもをつくろうという気にならないのではないか。
・村内で自由に子どもを育てやすい、生活しやすい補助等の対策を考えてもらいたい。
・「子どもをたくさん産んだらお金・・・」というのは実際に「お金もらえるから 3 人目産んだ」という話を聞いたので成果があるのではないかと思った。
・住んで子どもとの生活に不安にならないように子どもが産まれたら 10 万とした制度ができたが、すでに出生している子にもそれに相当する制度があってもいいと思う。

【教育】
・高度な教育を受けられる、豊かな自然と触れ合える、自由な発想と実現ができる。
・小さい子ども（小学生くらいまで）を育てるには十分な環境だとは思いますが、高校生以上を育てるには、電車が通っていないため希望の学校に通わせるには下宿や送り迎え等の親の負担が増え、難しいと思う。
・交通の便が悪いため村外への高校進学の際、下宿など高額になるので改善してほしい。（尾駮からバス等を出すなど）
・六ヶ所内に居住しながら通える高校が少ない。六ヶ所村に住み生活していけるような教育を充実させてもらいたい。そうすることで人口流出も少なくできるのではないか。（高校進学とともに村外に行く生徒も多いと思う）
・村の人口減少の一つに子どもの進学問題があると思う。県内で子どもだけでも安心して生活できる場所があれば少しは減少を抑えることができるような気がする。そのような場所を行政や民間が協力して提供できれば良いと思う。
・将来的に子どもを進学させることを考えると、六ヶ所村ではなく青森市や八戸市、三沢

市に居住することになると思う。
・子ども達の教育問題において、六ヶ所村での学校、施設があることによって安心感があると思う。金銭的にも村内だと家庭に響かないと思う。
・子どもがいたとしたら、教育に関してはとても不安がある。子どもの中学や高校進学のタイミングで村外への移住を検討したくなると思う。全体の学力向上を望む。
・村の HP を見ると、教育にかなり力を入れているように見えるが、あまり偏差値等に結びついているように感じない。（もちろん、偏差値が全てではないが）
・子ども達の進学を機に六ヶ所村を離れていく人が多数いる。高校までは選択肢に幅を持たせてあげれば踏みとどまる家庭も多いのではないかと思う。
・返還の必要のない大学進学等の奨学金や施設があればいいと思う。
・生まれてから大学卒業までは無理でも、高校卒業まで村内に在住する子どものいる家庭には学費、税金(両親の所得にもよるが)で手当て(ばら撒きのお金ではない方法で役場から直接学校へ払うなど)にしてみてはどうか。卒業後、村内に残る方又はＵターンにして 10 年在住すれば住宅地を格安で購入できるなど。
・子育て、学校、福祉に人を増やしてほしい。特に学校。小・中はもう少し手厚くてもいいと思う。
・村内の小学校、中学校をひとつにまとめていくべきと思う。
・中学校の合併、人数が少ないため部活も少ないので。
・小中給食無料化、全国統一最低賃金
・子ども達の笑顔が耐えない明るくクリーンな教育環境を創り上げてほしい。日本原燃が頑張っているサイクル事業がうまくいき、日本に誇れる事業になっていること
・村内の子どもや大人が気軽に集まって関わることのできる塾やクラブなどがもっとあればいいと思う。
・小中学生向けのスポーツ教室や工作教室の開催

【高齢者福祉】
・一地区に高齢者用施設を一つという様に建築希望家族がいるそばに高齢者施設があればお互いに安心できるのではないかと思う。また、同じ地区の高齢者がその地区内の施設に入れれば顔見知りも多く、一段と活気もできるのではないかと思う。
・高齢になると車の運転もできなくなるので病院等への交通手段、買い物等の交通手段等も考えていってほしい。
・車のない高齢者の日々の買い物援助
・高齢者が増えて、中には車の免許を返納し自由に病院に行ったり買い物に行ったりできない人も増えると思う。村でもバスで送迎してくれているようだが、今以上にサポートが必要になってくると思う。
・介護サービスの充実
・高齢者の一人として、介護施設の充実（家族に負担をかけることが一番不安に思っている）
・セレモニーホール（葬儀場）を作ってほしい。
・住んでよかった村のため社会福祉環境に予算をかける。

・今は車で移動できるが 10 年後はどうかとても不安。冬の雪かきもとても不安。なので、八戸市など周りにスーパー病院等ある地域に住みたいと思う。六ヶ所がそうなればよいが良いのは尾駮ばかり。
・関係のないことかもしれないが、村をまわっていて感じることが、買い物できる所がないと言う老人の多いことです。
・高齢者、障がい者、そして村の子ども達のために頑張ってください。それから、高齢者の無料はやめてほしい。せめて 50 円、100 円で。
・交通手段。病院に通うお年寄りがもっと社会に参加できるような学童支援（そろばん、昔遊び、書道等の指導）があればもっと元気になると思う。
・もっと高齢者の活躍できる場を作る。70 歳以上の方でも元気に運動をし、活動的な方がたくさんいる。小中高などに高齢者と接する場を設けてもいいのでは。また、今は、図画、図工、家庭科、道徳などの授業はないに等しいと思う。高齢者の方々にはこれらが得意の方がたくさんいると思う。まずは、子ども達の心と体の成長のために行動してもらえることを期待する。詰め込むだけの教育ではなく、勇気、知恵、行動がいかに大切であるかを学ばせたいと思う。高齢者の方々の経験と学びを伝えることで子ども達に生きるためには何が大切かを学び、考えさせることができればいいかと思う。

【交通・道路・除雪】
・三八地域、むつ市、青森市とのアクセスを向上させる。できれば雨に強いモノレール
・六ヶ所村までの交通機関を増やしてほしい（例えばＬＲＴ、ライトレール等）
・交通の便が悪い、車がないとなにもできない。
・交通機関が発達すれば田舎が不利でなくなる。電車や路線バスは厳しい。自動運転の軽自動車が早く実用化されることを願う。
・村内巡回のコミュニティーバスの充実
・六ヶ所村は交通の便が悪すぎる。村のバス（通学）等、福祉バス等の活用
・最も気がかりなのは冬期間の病院や買い物等の交通手段。吹雪で道が見えないときがあったり、道路が凍結していたりで危険。若いときでも大変恐ろしい思いをした。やはり、その点が良くならないと不便な印は消えないのではないか。
・公共バスに電気自動車を採用すべきである（エネルギーの村として）
・交通手段も尾駮地区の施設に子どもだけでも行けるように 100 円バス等、利用料金の安いものがあればいいと思う。
・交通の便がとても悪く自動車がなくては生活できないため、自動車に対する補助や支援を教えてもらいたい。
・通学や高齢者のためにも、三沢市、東北町までのバスを運行してほしい。
・少子化に伴い教育機関を減らしていく中、児童、生徒等の通学手段が充実していくことが必要だと考える。また、住みやすさを前面に押し出すことで、居住者を増やし、少子化を防ぐことが必要だと思う。六ヶ所村は市街地へのアクセスに不便であることがデメリットであるため、それを考慮した呼び込みをしていくべきだと考える。子ども達が様々なことを体験できるような村である六ヶ所村に多くの人が住みたいと思ってくれることを考える。

・公共交通の充実（通学できる高校が限られる）、高速交通網の充実（最寄の高速道路まで1時間は少し遠い）、大型ショッピングセンターの誘致（昼間人口が多いのに人口が少ないのは土地が原因と思われる）
・村内をバスなど公共交通機関が通っていないので年を重ねるほど住みづらくなる。
・道路にロードヒーティングを取り入れる等、冬の凍結や地吹雪があるので住むのをためらう。
・狭い道路があるので通院通学時の除雪に力を入れてほしい。近所のトラブルにもなって大変。排雪をもう少しやってほしい。
・自動運転の先進都市を目指し道路の整備をする。

【住居】
・六ヶ所村に定住してもらうために家を建てやすい環境（日本原燃の社員は子どもが小学校・中学校に行くタイミングで村外に家を建てて引っ越してしまう）
・時代の流れで核家族が当たり前だが、自宅・アパートなど二世帯住宅を建て売りしてはどうか。若い人と親が同じ場所で住むというのはとても良いと思う。孤独老人の一人住まいなど、何かメリットを与えて二世帯が増えたらとてもすばらしい事だと思う。
・アパートなど居住に関する情報が少なく知人に頼らないと住む場所が見つけられない。不動産情報を提供していくべき。
・村内の家賃をもう少し安くするようにしてほしい。
・近隣の市町村よりアパート代が高く住みにくいので安く。

【商業施設・レジャー】
・土日になるとみんな町へ出かけて、村内では人も歩いていないし、ガラッとしている。もっと家族向けに遊べる施設を作ってほしい。日曜日は特に店もほとんど休み。
・買い物するところや遊ぶところがないので、どうにかしてほしい。アウトレットモール、コストコ、ラウワンがあるといいと思う。
・他市町村（特に大きな市や町）に比べて、アフター5の充実が課題であると思う。
・仕事のほかに様々な余暇活動を提供し、充実した生活が送れるようにすべきと思う。
・六ヶ所村内だけで生きていけるように都市化していく。病院、スーパー、村内の交通機関の充実、衣類店、住居の確保
・既存の権力者などにより新規事業等が参入できない状態であるため、旧体制を崩すことが必要である。近隣地域に比べ、住民は多いものの商業施設が少ないため、地元にお金が入らない仕組みとなっており悪循環となっている。
・村内の商業施設の少なさが人口の流出や生活の満足度の低下の一因であると考える。そのため、積極的に商業施設の誘致をしてほしい。
・六ヶ所村から必ず出ないといろんなものが手に入らない。ベビー用品店や、いろんな商業施設を増やしてほしい。交通はとても不便。だから、村外(引越しなど）に行くと思う。
・六ヶ所村は店と呼べる場が少ない。（スーパーといえば「マエダ」のみ。等）そのため、買い物や食事を村外で済ませることが多い。また、レンタルショップや衣類関係の店などもないので不便。土地がたくさんあるのにも関わらず、これといった観光地も遊べる

場もないので、魅力を感じない。（白鳥の湖も全然人が集まらない）けれど、村民への手当てやイベントはとても良いと思う。

【イベント・観光】
・人が集まるようなテーマパークの建設
・休み等のイベントで村外からの流入人口を増やす。
・若者たちに響くイベントなどをやったらいいと思う。
・イベントなど（楽しむべ等）の看板をもう少し大きく見やすくしたほうがいいと思う。
・生活に密着した事業、イベントを実施すべき
・空き家を利用しての事業などあってもいいと思う。大人も子どもも村民も村外の人もたくさん交流しながらまた住みたいと思えるような「何か」があるといいと思う。
・空き家を利用して、地域の人達が気軽に集まれる場所を作るために必要なことを相談する窓口がほしい。必要な書類の作成、クリアしなければいけない問題。（法律、資格）リフォームの仕方など
・他の市町村にはない、六ヶ所村の目玉となるような施策を行政、民間共同で検討したほうが良いのではないかと考える。
・縄文文化関連の行事を活発化させてはいかがか。
・太平洋を利用した釣公園。（遠方からの滞在を許可するもの）釣り船、渡り舟を運用し、沖あいを釣公園にする。サーフはサーフィンパークとして若者を呼び込む。安全に遊べるように第三セクターで運営母体を設立する。
・ろっかぽっかエリアを観光物産の拠点とするため、既存施設とコテージ、オートキャンプ場等の宿泊機能を有する新規施設が一体となった「道の駅ろっかぽっか」を進める。
・六旬館の駐車場の増築(イベント用)と野菜などの品質や価格を地元の人でも買いたいと思えるものに。
・めっぽうどんなど名産をお披露目できる。
・六ヶ所村に各企業がたくさん営業活動をしているが、何とかその従業員を定住できるよう努力すべきであり、その人達を取り込んだイベント等を行うべきである。例として、「山登りバーベキュー」「湖沼群を利用したカヌー散歩」「各地区に点在する公園の活用イベント」
・本州県外もしくは北海道から本州の中継地点として、宿泊施設、キャンプ場などのアウトドア施設を充実してはどうか。そのアウトドア施設周辺に大型スーパーや温泉施設などを整備し、リゾート地として全国にアピールする。六ヶ所村＝エネルギー産業とリゾート地というＰＲをしてはどうか。農園カフェなども。
・青森市のねぶたはこれから先も続いてほしい。
・楽しむべフェスティバルのレーザー花火や国際交流

【自然・歴史・伝統・文化】
・白鳥が渡来したり、湖（沼）が数多くあったりする。
・自然豊かな六ヶ所村の風景をこのまま残していってほしい。
・自然を活かした村づくり

・自然がたくさんあること
・自然が多すぎる。自然の植生が豊かな場所もありますが。山、海、沼、いいところいっぱい。農業もいい。
・陸奥湾、太平洋両方の海の幸を楽しめる。
・自然を残したい（きれいな海、砂浜、きれいな水、きれいな空気）
・恵まれた自然環境を十分に使えていないと思うので、子ども達が六ヶ所村に住んでいて楽しいと思える環境を作ってもらいたい。
・六ヶ所村の自然、子ども達に六ヶ所村って何があるの？と聞くとお金と答える。良いような悪いような悲しい現実。そうではなくどうしてお金があるのか、そのお金は村に対してどのようになってほしいか（何のために使用するお金なのか等）そういった点の正しい認識を伝えていってほしい。村の歴史を踏まえて。
・六ヶ所村の歴史から始まり、近世の村の成り立ちを長く記録し、孫の代まで残し、語り継ぐべきと考える。特にこの半世紀にむつ小川原開発、原子力施設等の立地に至った歴史等を伝えるべきである。（六ヶ所村は国策の実験場であったような気が今もしている）
・これまでのサイクル誘致までの歴史や当時ここで暮らしていた人たちの思いや誘致前の村の生活ぶりは後世に伝えるべき。
・科学技術の発展された将来においても、伝統、文化が継承されることを望んでいる。
・豊かな自然環境を次の世代に残していきたい。
・その時々のブームに流されない長期的に一貫した方針の下で進めていくことが重要だと思う。豊かな自然を活かす取組みが六ヶ所村の素晴らしい点だと思うので、最低限のインフラ（道路、水道、ネット環境、病院、公共交通）を維持することが重要だと思う。
・環境や自然のためといいつつ、太陽光や風力発電を作るために、森の木々を切るのは違うと思うので、自然はできるだけ多く残してほしい。
・豊かな自然を大切にすべき。今後はIT関係が益々発展し、都会に住む必要性は薄れていくと思うので、インフラを充実させて豊かな自然を売りに若い人の教育に力を入れてはいかがか。
・山も気軽に登山できるように整備すれば、村外へ行かなくても色々体験できる場所を残していけると思う。
・六ヶ所村には少しの時間で行ける、海・山・湖沼も農地もある。都会のまねをすればこれらは壊れてしまうと思う。もうハコモノ、建物はいらないので、少し不自由でもこれらの自然と調和した環境がいつまでも残っている六ヶ所村でいてほしい。
・六ヶ所村の端から端まで遊歩道を造り、いつでもお散歩やジョギングができ、自転車が乗れ、疲れたときは出戸の風呂に入ったり、気晴らしに山菜を採ったりと、子どものうちから車に頼らずに生活できたら、体力の向上や自然に対しての知識、災害への備えに繋げられると思う。また、幼稚園で英才教育を受ける。身体能力の優れた子は、自然の中で育った体を活かし、アスリートになればいいと思う。
・きれいな海、豊かな自然、田舎ののんびりさ、安心できる生活
・自然があり、森や木、生き物が身近にあることを知っていき、感謝の気持ちを育むことができるような将来
・自然がいっぱいの六ヶ所村。うちの子ども達は海が大好き。キャンプができるところを

作ってほしい。安く使える所
・私が結婚した頃の泊の海岸はとてもきれいだった。今は砂を掘り出し、海岸が少しずつ昔の形をなくしている。山は木材が少しずつ切り出され、山と海の関係が崩れて海産物が 20～30 年ぐらい経ったらますますとれなくなるのではないか、災害が多くなるのではないかと思う。
・エネルギーの村であるが、自然豊かな村でありたいと思う。尾駮の水辺をきれいにしたことも大変いいと思う。
・サイクル事業があるから村が豊かなのは分かっているが、六ヶ所村の閉校になった学校を含めた校歌にある情景のような自然が残ってほしい。六ヶ所村の砂は野球場、ゴルフ場にとても好評だと。でも、現場を見ると悲しい。埋め立てられているところも。採石場も、ソーラーも尾駮沼の公園も何のために、誰のためにと思う。

【第一次産業】
・豊かな自然を残したまま一次産業を発展させる。例えば、農地の改良、農産物の品種改良による高品質化、林業を発展させ、建設業まで含めた一体事業の推進、六ヶ所村発ひばの木ハウスのブランド化、採る漁業から育てる漁業への転換、ウニの養殖など。そのための人材育成を行う大学校（大学ではない）や一次産業発展のための研究開発機関を誘致する。止めてほしいことは景観や自然を破壊する風車や大型パネルの設置。既設は早急に撤去すべき。
・農業が盛んな六ヶ所村のはずが農業を仕事として働いている人は、高齢の方ばかりで、農家に生まれた若い人は村を出て仕事をしている。私は農家として働いていてどれだけこの仕事が世の中にとって大切なものか身をもって感じている。せっかくの土地や機会があるのに農家をしないことは残念に思うので、将来生まれてくる子ども達のために六ヶ所村が力を入れて第一産業を盛り上げ、農家を目指す子ども達に安定した資金や支援をしてほしいと思う。また、将来だけでなく今からでもお願いしたい。
・農業、畜産業、漁業等の第 6 次産業の企業支援等を行い、村内の仕事を増やし、村外への流出を防止する。

【産業・雇用・働き方】
・雇用と財源の基盤となる基幹産業を(できれば複数)確保しつつ、人材育成と交流による産業成長が盛んなロケーション
・新しい誘致企業を増やして村内の仕事を確保する。日本原燃なしでも仕事があり、村内に住める村民を増やす何かの対策が必要と思う。
・就業場所の確保、村内での安定した仕事
・雇用の確保のための施設が必要だと思う。個々での受け入れは資金面など難しい。公共の施設はもう沢山あるように思うので。
・最低賃金の上昇、村内企業の給料の開示が地方創生につながると思う。
・安定した収入が得られる就職先があること
・六ヶ所村内の給料では子どもを育てるのは大変
・人口減少を食い止めるためには、安定した雇用(特に若い世代や女性が働きやすい職(仕

事)が必要だと思う。六ヶ所村でより多くの若い世代がファミリーを作り、ここでずっと住みたいと思わせるような魅力的な村づくりが必要。
・私自身、子どもの出産を経験した。出産前からのケアや出産後の子育てのケア、教育など子育てのしやすい環境だと思った。子どもが大きくなり、六ヶ所村で働きたいと思えるような六ヶ所村づくりをしてほしい。
・小さな子どもを持った人達が休みを取りやすい環境があればいいと思う。（病気のとき）
・職場で子どもを保育しながら、仕事ができるようにすれば働きやすくなると思う。
・なるべく残業や休日出勤しなくていいように働けたらいいと思う。家族団らん（夫婦団らん）が少しでもあれば心にゆとりができていいかも。
・「衣・食・住、職場と家庭が接近した自立型の地域」そのためには、工業所得の受け皿となる商業、サービス業の起業支援、営業サポートと定住促進住宅等の整備が必要。
・産業が少ない。大規模農業や、加工工場、工場地帯等新たな産業の創出が必要。
・原子力への不安はあるが就業的には雇用の場所として残してほしい。
・職人あるいは人口の減少により各事業者の方々が先々心配に思う。そして、村の人口を増やしたらと思う。
・六ヶ所村を好きになった団体を「福岡県のあまおう」みたいな感じで働き先をつくる。
・ＩＴ技術を利用して、都市部の企業の業務の一部を地方で行えるようにするシステムを構築する。
・ロボット産業に助成金を与え、ロボットに仕事をしてもらい六ヶ所村の税金 0 を目指す（特区申請必要）
・電力の地産地消を目指し、電気料金を半額にして企業を誘致する。

【エネルギー】
・次世代エネルギーの拠点となっている。
・完全で安全な原子力施設の確保
・原子燃料サイクルの確立
・脱原発を願い、再生可能エネルギーの拠点にしていただきたい
・福島のような事故がないように、それだけ。この土地、この家、周囲の環境をそのまま残すこと。
・メガソーラーについては懸念がある。発電を終えた後の処理はどうなのか。パネルに使われている有害物質（カドミニウム）などが放置され悪影響はないのか。これ以上の自然破壊は避けるべきかと思う。
・必ず原子燃料サイクルを確立させ、稼動から廃炉に至るまで安定した高水準の雇用を生み出すべきである。何もないと言われ続ける村の現状を打開して、世界でも有数のエネルギーのまちとしていくことが大切である。雪が深いことをデメリットにしない施策を。
・夕張市が「昔、炭鉱で栄えて廃れた町」と言われるように、六ヶ所村が「昔、核燃サイクル、エネ政策で栄えて廃れた町」という風にはなってほしくない。
・今、六ヶ所村に 30～50 年貯蔵され、後に地層処分される高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)は今後、現在考えられる貴課による確実な方向性を示すことにより（タイムテーブル）安心、安全な村を強調することができると思う。

・最終処分地を今年見つけたとして、ガラス固化体は今何年保存しており、運び出されるまでどのような行程をたどっていくのか、タイムテーブルが示されると孫に六ヶ所村に来いと言える。
・「危険な村」と思われているから、科学的に安全性を示さなければ、村に来て住んでくれない。人口も増えない。早くガラス固化体の搬出スケジュールを発表し、さらにバックエンド技術者を作って村外に出張させるような産官学連携、交流事業を行うことが六ヶ所村からの世界への発信である。
・六ヶ所村が核の最終処分場にならないように伝えたい。

【行政サービス・官民連携】
・電話の受付の人にきちんと課を伝えたのに別の課に回されたがなぜか（何回かある）
・「何でも新しい」ではなく既存の建物を有効に使う。もったいない精神を継承できる。
・レイクタウンエリアに役場機能、商店街機能、宿泊機能を兼ね備えた複合施設の整備を官民共同で行う（第三セクターの活用等）
・空き家については民間と連携しなければ進まないし、解決していかないと思っている。空き家事業を進めていく中で、リノベーションまちづくりの知識を得るための研修(主に民間向け)も必要と考える。
・税金支払いをコンビニでも払えるようにしてほしい。
・行政の運営方針の改革が必要。必要な公共工事もあるが、福祉系にシフトすべきではないか。誰のための行政か。業者のための六ヶ所村に見える。住民のことを考えて公的サービスが強化されることを願うばかり。
・行政手続き書類が多い、面倒くさい
・遠方に行かずとも近場で満足できる行政環境を作っていただきたい。
・村のビジョンが良く分からない。今いろんな交付金があり、将来積立として残していただきたい。税金の無駄遣い。議員の人数が多すぎる。
・人口が増えていないのにハコモノばかり増えているのはなぜだろう。理由は分かっているがあえて言わない。このつけは孫世代に維持費としてかかってくることを忘れず。そういう心配がない身の丈にあった生活ができる将来を望む。
・各施設の維持管理費はこれからの村の財政に足枷となりかねない。今、村では定住人口（増）対策に一生懸命取り組んでいることは承知しているが、これも進みすぎたインフラ整備の負の部分の影響ではないか。
・現在（地方交付税不交付団体）までの村の財政力は確かに逞しく微笑ましいことではあるが、その財源で体力以上の施設整備に偏ってきたのではと心配になる。
・医療の発展、交通の利便性、最低限そろっていなければ永住したいと全く思わない。建物ばかり建てることにお金を使って、人に関わることにお金を使っているか。
・負のレガシーが残らなければ良いと思う。

【住民参画・村民性】
・村内で頑張る熱意のある人達をよりしっかりサポートして支援できるようになってほしい。(金銭面だけでなく)

・ＳＩＢ(ソーシャルインパクトボンド)を活用した「成果型」の補助金制とし、活発に民間がまちの課題解決のために事業展開できるような仕組みづくりと連携が良いと思う。東近江版ＳＩＢがとても参考になる。
・時代に則した環境に作り上げていくことが望ましい。六ヶ所村は特徴的で若い世代が非常に多い。行政、民間共にその場や数年を見て取り組むのではなく、数十年先まで考えなくては、人口減少の波に飲まれてしまうのではないか。必要性は十分に議論が必要だが、「衣食住」それぞれの取組みを行政、民間で深く議論する場から設けるべき。一部の選ばれた人で議論しても視野は広がらない。
・日本は面積に対する人口が多すぎるため、むやみに子どもを増やせばその子ども達が高齢者になった時、更なる高齢化、自然破壊を進めることになる。全員が政治に参加できる方向で進め、意見を集めればいいと思う。
・役場、会社、病院、老人ホームの連携プレーチームを
・新しい建物が建っても特徴ある建物だと思えない。住民の意見も取り入れたほうがいいのでは。
・より多くの人に魅力的に感じてもらえるコミュニティ施設やイベント、住環境をみんなが力を合わせて作り上げようとする意識の向上に期待する。
・お祭りや行事を村民全体で盛り上げたい。
・新鮮な地産品が安く入手できる訳でもない六旬館や最近できた誰の為かも何の目的かも分からない尾駮沼沿いの公園（尾駮レイクサイドパーク）のようなものを作っても住民は求めていない。ＨＰがチープ＆更新もされずやる気を感じない。住民が何を本当に求めており、六ヶ所村に何が不足しているか考えれば、もう少しまともなことに予算が使えるのではないか。選挙情報くらいはＨＰでタイムリーに発信してはどうか。立派な病院があってもまともな医療を受けられず、結果三沢市や八戸市、青森市と遠方まで行かなければならない。意見を吸い上げる目安箱のような仕組みがない。ＨＰで実施してはどうか。意見を吸い上げるのであればその一部でも反映しようとする意気がほしい。住みやすくなっているとは思わない。
・村民のマナー向上、他市町村の方に村の人のマナーが悪いと話をされる。
・私はおいらせ町から六ヶ所村に来た。口の悪さ、行儀の悪さに驚いた。若いこれからの人達のために、学識ある方々の講演会など開いて、行儀（しつけ）や他人に対しての思いやりなどを講演するべき。
・六ヶ所村ならではのものはもちろんだが、他の市町村や県内、または全国での当たり前の基準も（良い、悪いも含めて）子ども達に伝えることで、さらに六ヶ所村の良さが伝わると思う。
・まずは人生を楽しむこと
・人を大事に生きてほしい。
・ふるさとを大切にして、皆が思いやりを持って生きてほしい。

【次世代】
・無駄なことではなく、若者のためにお金を使う。
・若者の職場と観光のできるところに力を入れたらどうでしょうか。

・私たちの年代の人達はまだ仕事もあり、生活はそれほど裕福とはいえなくても、それなりに生活できてきたと思うけど、これからの人達は仕事も娯楽も恵まれているように見えるけれども、生活自体はそんなに楽ではないと思う。子どもを学校に入れ、一人前にするまでお金もかかるし、頑張っていってもらいたいと思う。
・役場で何でもできる若いチームが必要。
・どんどん若い人材や考えを取り入れ、常に時代についていけるようなまちづくりをしてほしい。
・次世代に社会問題を押し付けることがないようにしたい。

【スポーツ】
・数十年前に行われたトライアスロン大会はまさに六ヶ所村を満喫できるイベントだったと思う。
・スポーツの村を宣言しているので、幼児～老人まで運動環境が近くにあれば良い。自治体（役場）が主となってスポーツの環境を作ってほしい（指導者も含む）。引退したプロ選手等を連れてきて指導者として迎えてほしい。
・将来ある子ども達にいろんなスポーツができる環境を。
・スポーツはあまり詳しくないが、全国または世界で活躍する選手を対象に合宿できる環境があればいいと思う。

【情報発信】
・六ヶ所村で人口減少に歯止めをかけるための施策はとても良いと思うが、村内に住んでいる方々も、関係がなければ知らずにいる方も多い。まして、村外に住んでいる方々は子育て中の方やその親たちでも把握しいている方は少なく、周知のもっと良い方法があればと思う。（SNS、TV、広報誌などでインパクトのある見せ方：1 人の子どもが成人するまでに受ける補助額など他市町村にはない目玉）

【安全・安心】
・自然災害が増えてきているので、各地へすぐに行って役に立てるような、六ヶ所お助け隊というような組織を持つのも面白いかと。
・お金があるからと建物ばかり建てるのはこれ以上必要ないことだと思う。避難場所や道路に力を入れてほしい。
・山や砂浜をこれ以上壊してほしくない、台風や高波などのときは、砂の工事現場を通るとき、波がすぐ近くまで押し寄せていてとても恐い。今、各地で起こっている異常気象は近いうち六ヶ所村にもやってくるのではと危惧している。

【生活コスト・税金】
・青森県の生活コストの安さをアピールするとともに、県外への人口流出を防ぐための魅力的な雇用の創出と税制の優遇措置が必要。特に、マイカー保有率は一家に一台どころではなく、通勤に使う人も多いため、自動車税の軽減と車検制度の廃止、ガソリン税の廃止を強く求める。青森は車社会です。雪で寿命も少し短いです。現状を理解して乗り

やすい環境を。
・生活費が安く住みやすい町（灯油、電気、水道等補助金を出してほしい）オール電化にするには費用がないので無理。
・住民税が高すぎる。
・エネルギー関連産業は進捗が遅く、急激に人が増えるとは思えない。ただし投資金額が多いのでなくなるとも思えない。どこに行くとしても効率的に移動できる。住むのに固定費が安いと言う合理的な立位置が失敗も少なく良いのでは。

【地域間格差】
・住宅地域と農村部をそれぞれ発展整備する。
・尾駮地区が中心と考えてほしくない。小・中・高とある千歳平地区にろっぷみたいな施設があれば健康的な子どもが増える。尾駮だと意外に交通の便が悪い。無駄な空き地を活用してほしい。
・尾駮地区ばかりに各施設が集中しているので、他地区にも分散してほしい。
・施設が尾駮地区に集中している。六ヶ所村内でも 20 分以上かかる施設だと行きたいけど行きづらい。千歳平地区にも施設を作ってもらいたい。
・地域的に人口が増加になる地域（尾駮レイクタウン）とそれ以外に減少する地域の格差の改善など、公共的な住環整備など（村営住宅の整備）によって均衡の取れた地域づくりを望む。
・銀行の ATM の設置（千歳平）

【衛生環境】
・まずは「きれいな街づくり」（清掃活動、ごみの分別をしっかり行ってほしい）
・ごみに関して、各地区に一つに集中させ集める。曜日ごとに集めるのではなく、毎日なんでも集めるようにする（ポイント制にしてトイレットペーパーを還元させる）

【広域的視点】
・八戸市ー三沢市ー六ヶ所村ーむつ市ー函館市となるような経済圏が形成されている。
・将来の村の財源に懸念があるのなら人口増対策が急務かと思うが、この問題（人口減少）はどの自治体も悩んでいることであり、ある意味住民の争奪戦のきらいがある。適正な行政人口を考えるのであればそろそろ近隣市町村との合併も考える時期ではないか。とりあえず村が主導で進めることができるためにも人口が村より少ない横浜町との事を選択肢の一つに入れておくことも必要なのではないか。
・野辺地町、横浜町のベッドタウンにしたらどうか（医療費、給食費、保育料無料など子育て世帯には魅力的な部分があるため、そこをアピールして、若い世代を増やす。）習い事も含めて教育内容がいまいちで他市町村へ転出すると思う。
・六ヶ所村独自で進めていくことが望ましいだろうが、地方創生事業等に対しては、第 5 次環境基本計画で記された「地球環境共生圏」の創造に則して進めてはいかがか。

【その他、改善要望等】
・毎年アンケートに答えているが、本当に無作為なのか。
・こういったアンケートをすることは構わないが本当に村民の声は届いているのか疑問。より良い村にするためにもっと頑張ってほしい。
・アンケートの結果について公表してほしい。
・なぜ若者が六ヶ所村に勤めながら定住はしないのか、役場の皆さんは分からないのか。子どもを育てる環境になっていないことを自覚した方がいいのではないか。小児科がない。大学進学が望める学校がない。そのために必要な教育水準が足りない。このようなアンケートをとるより、直接意見を聞く集会を企画したほうがいいと思う。結局現状で満足しているか、あきらめているかのどちらかだと思う。
・六ヶ所村行政として結果を出してほしい。結果を出せないなら責任を取ってほしい。
・行政や民間が行うのではなく、政府がすべきと考える。
・平和
・六ヶ所村役場に期待する事はない。
・行政の案がなさすぎる。
・残したいと思える将来像がない。
・良く分からない。